

授 業 計 画

一級自動車工学科
二級自動車工学科
車体整備工学科

(1・2年次)

令和4年度

専門学校 久留米自動車工科大学校

1年 学科

授 業 科 目	ページ
目次	2
教養知識	3・4
ビジネスマナー	5・6・7
企業研究	8・9
エンジン構造	10・11・12・13
シャシ構造	14・15・16・17・18
電装品構造	19・20・21・22・ 22・23
二輪自動車構造	24・25・26
自動車総論	27・28
自動車の力学	29・30・31
電気工学	32・33
燃料・油脂	34・35
整備作業機器	36・37・38

1年 実習

授 業 科 目	ページ
手仕上げ工作	39・40
基本計測	41・42
エンジン実習	43・44・45
シャシ実習	46・47・48・49
電装実習	50・51・52

2年 学科

授 業 科 目	ページ
シャシ構造	53・54
特殊機構	55・56・57・58
自動車の数学	59・60・61・62
自動車材料	63・64・65
製図	66・67
ガソリンエンジン整備	68・69・70・71
ジーゼルエンジン整備	72・73・74
シャシ整備	75・76・77・78
二輪整備	79・80
電装整備	81・82・83・84
故障原因探求	85・86・87
測定機器・検査機器	88・89・90
検査	91・92・93
法規	94・95・96・97

2年 実習

授 業 科 目	ページ
基本計測	98・99
エンジン実習	100・101・102・ 103
シャシ実習	104・105・106
電装実習	107・108・109・
自動車検査作業	110・111

1. 教育内容 : 教養知識
2. 教育科目 : 教養科目 (教養)
3. 担当者 : 杉野 啓司 (日産系販売店にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級・車体・二級 1年 前期(13時間)
5. 使用テキスト : 「わかる！！わかる！！わかる！！一般常識」
(株式会社新生出版社)
教材プリント及びオリジナル資料

6. 授業の内容と方法

学科教室で、配布する教材プリントに基づいて、プリント記載の重要なポイントや、練習課題・例題等の解き方考え方を板書します。プリントの重要部分等にアンダーラインを引く、メモする等、プリントに授業の内容を記書き加えて下さい。

7. 科目の到達目標

社会人、職業人としての自立した人材として、職業に従事するにあたって必要な一般教養、業務理解に必要な基礎学力を学び直し、自動車整備士業務のみならず、将来に向けたキャリアアップに繋がる思考力を身に付けます。個別的な知識や公式を覚えるのではなく、基礎的な学力に基づき、自分の考えていることや思っていることを、適切に表現できるようになることが目標です。

8. 成績評価方法

前期末に行う試験の点数が、60 点以上であることを学習到達度の評価とする。併せて、出席が必要とされる規定の授業時間数出席していること。両方の要件を満たした者を履修した者として合格とします。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

一般教養の基礎となり応用となる基礎知識になじむため、新聞や雑誌を読んだり、ニュースなどに興味を持つようになることが事前学習となります。

10. 授業計画

1) オリエンテーション

(採用試験における一般常識の位置づけが分かる)

- 2) 基礎学力(現代国語基礎)
(文章を作ることができる)
- 3) 基礎学力(数学基礎)
(基礎的な計算ができるようになる)
- 4) 国の仕組み
(成り立ちから憲法の3原則が分かる)
- 5) 測定
(測定に係る単位が分かる)
- 6) 歴史の流れ(東アジアと日本の関わり)
(漢字の読み及び意味が分かる)
- 7) 数学知識
(単位換算、公式、角度が分かる)
- 8) 社会保障制度及び経済
(社会保障などの一般常識が分かる)
- 9) 日本の文学
(慣用句、ことわざが分かる)
- 10) 略語、英単語
(日常使用される略語、英単語、カタカナ語が分かる)
- 11) 計算方法
(計算のルール、方程式、比例式が分かる)
- 12) 学習のまとめ
(社会生活を送るにあたって一般常識的な知識が分かる)
- 13) 前期末試験

11. 備考・・・その他

教養知識について質問等がある場合は、事前に日時の相談をしてください。
連絡が必要な場合は下記アドレスへメールすること。

sugino@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : ビジネスマナー
2. 教育科目 : 教養科目(教養)
3. 担当者 : 外部講師 (西日本エリートスタッフ)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級・二級・車体 1年 通期(29 時間)
5. 使用テキスト : オリジナル・テキスト
6. 授業の内容と方法

学科教室で、オリジナル・テキストを含め、配布する教材プリントに基づいて、授業を行います。社会人として求められる心構えやコミュニケーション方法等、また就職に向けた自己管理や企業研究をグループでの話し合いを活用し、他者との関わりを重ねながら学んでいきます。先輩社会人の話を聞く機会も設け、「働く」ことへの理解を深めます。

7. 科目の到達目標

社会に関わっていく心構えを基礎から学び、将来に向けて、より具体的に能動的な行動意識を持つことを目標とします。

8. 成績評価方法

前期・後期に行う試験の点数と出席状況を反映させた出席点を合算し評価点する。この評価点が60点以上、且つ規定の授業時間以上出席した者を合格とする。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

各自の就学の目標(資格取得や技能習得等)や将来の夢が何かを改めて自問しておくことを期待します。その目標に向けて必要な行動手法を学ぶ機会にもなりますので、受講のモチベーションにも繋がるものと考えます。

10. 授業計画

- 1) オリエンテーション
(授業への取り組み方が分かる)
- 2) 働く意味を考える
(働く意味が分かる)
- 3) 自己理解・他者理解を進める
(人間関係の基礎が分かる)
- 4) 学生と社会人との違い
(社会人として求められる要素が分かる)
- 5) アサーション①自分のコミュニケーション方法を知る
(コミュニケーションの基礎が分かる)
- 6) アサーション②きき方を知る
(コミュニケーションの基礎が分かる)
- 7) アサーション③より良い表現方法を知る
(コミュニケーションの基礎が分かる)
- 8) 立ち振る舞い・電話対応の基本
(社会人としてのマナー基礎が分かる)
- 9) 求人票の読み方
(雇用形態・職業・企業情報の読み取り方が分かる)
- 10) 企業を調べる①
(企業研究法が分かる)
- 11) 企業を調べる②
(企業研究法が分かる)
- 12) 企業研究振り返りと職業理解
(企業毎に違いがあることが分かる)
- 13) 前期期末試験
- 14) 社会人講話
(エンジニアとして何が求められるかが分かる)
- 15) 社会人講話振り返りと職業理解
(将来希望する職業に向けた目標と課題が分かる)
- 16) 社会人基礎力
(企業が求める人材像が分かる)
- 17) 自分を知る①
(就職活動で求められる自己分析方法が分かる)

- 18) 自分を知る②
(就職活動で求められる自己分析方法が分かる)
- 19) 自己PRを考える
(応募書類の書き方が分かる)
- 20) 志望動機を考える
(応募書類の書き方が分かる)
- 21) 文章表現を学ぶ
(効果的な応募書類の書き方が分かる)
- 22) 履歴書の書き方
(効果的な応募書類の書き方が分かる)
- 23) 履歴書を書いてみる
(効果的な応募書類の書き方が分かる)
- 24) 面接基礎①
(面接時もマナーが分かる)
- 25) 面接基礎②
(面接での答え方が分かる)
- 26) 模擬面接①
(実際の面接を想定して行うことで、面接の準備ができる)
- 27) 模擬面接②
(実際の面接を想定して行うことで、面接の準備ができる)
- 28) 新入社員としての心構え
(職場での基本を身に付けることができる)
- 29) 新入社員としての心構え
(職場での基本を身に付けることができる)
- 30) 後期末試験

11. 備考・その他

学生の皆さんの就学状況等、職員の皆さまと情報を共有しながら、成長の促しが出来ればと思っております。気になる点等があれば随時ご相談頂きたいと希望しております。

1. 教育内容 : 企業研究
2. 教育科目 : 教養科目
3. 担当者 : 杉野 啓司 (日産系販売店にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級・二級・車体1年 前期(13時間)
5. 使用テキスト : オリジナル・テキスト
6. 授業の内容と方法

この授業では、社会人としての心得、働くことの意味を考え、自己分析と企業訪問の大切さを学ぶため、外部講師に会社の採用担当者を招き、会社の情報や、就職情報の講義を行い就職活動に役立てる。

7. 科目の到達目標

社会人としてのスキルを身に付け、就職活動がどういうものか理解し、自分に合った会社を選択することができるようになる。

8. 成績評価方法

主に、出席点、講義後に提出するレポート点で評価し算出する。この点数が60点以上で、且つ規定の授業時間以上出席した者のみを合格とする。

また、出席点、レポート点で合格点に届かない者は、筆記試験で合否判定を行う。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

会社の採用担当者が講師になるので、身だしなみはしっかりとする。

(爪の長さ、髪の毛の長さ、服装は特に注意)

10. 授業計画

- 1) 導入

(カリキュラム内容と自動車販売会社について理解できるようになる)

- 2) 自己分析と将来像
(就職先選定について、自己分析と適応能力から就職活動での知識を身に付ける)
- 3) 外部講師(会社の採用担当者)による講義①
- 4) 外部講師(会社の採用担当者)による講義②
- 5) 外部講師(会社の採用担当者)による講義③
- 6) 外部講師(会社の採用担当者)による講義④
- 7) 外部講師(会社の採用担当者)による講義⑤
- 8) 外部講師(会社の採用担当者)による講義⑥
- 9) 外部講師(会社の採用担当者)による講義⑦
- 10) 外部講師(会社の採用担当者)による講義⑧
- 11) 外部講師(会社の採用担当者)による講義⑨
- 12) 企業訪問の方法について
(連絡の取り方や、企業訪問での注意事項が理解できる。)
- 13) 前期期末試験

11. 備考・その他

授業後にレポートを書いて提出してもらうので、講義中に大切なことなどはメモを取るようにすること。不明な点があればメールなどにて質問してください。

sugino@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : エンジン構造
2. 教育科目 : 専門科目(自動車工学)
3. 担当者 : 盛重 航平 (BMW系自動車会社にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級、二級、車体 1年 ・ 前期・後期(56時間)
5. 使用テキスト : 「三級自動車ガソリンエンジン」
「三級自動車ディーゼルエンジン」
(日本自動車整備振興会連合会)
「ガソリンエンジン構造」
「ディーゼルエンジン構造」
(全国自動車大学校・整備専門学校協会)

6. 授業の内容と方法

学科教室において、テキストを使用し授業を進める。テキスト内画像はプロジェクタで投影し、大切な所とテキストは板書を行うので、ノートを取って復習をすること。

7. 科目の到達目標

自動車整備士の国家資格取得をめざす専門学校生として必要な知識を身に付けさせ、実習での理解度を高めるためにも、エンジン本体構成部品の役割、構造の知識を確実に習得するよう努めること。

8. 成績評価方法

前期・後期に行う試験の点数と出席状況を反映させた出席点を合算し評価点とする。この評価点が60点以上、且つ規定の授業時間以上出席した者を合格とする。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

この授業を正しく理解するためには予習が大切、授業の前に教科書を読んでおき授業に臨めば理解も深まる。また、教科書以外の内容もあるので、ノートは確実にとること。

10. 授業計画

- 1) 導入
(原動機の歴史 内燃機関とは何か、現代においてどのような進化をしているのか)
- 2) レシプロエンジンについて、各作動方式
(エンジンの大まかな作動が分かる)
- 3) 内燃機関、各サイクル解説
(内燃機関の分類が分かる)
- 4)～6) シリンダ数、配列、各作動方式
(シリンダヘッドについて、燃料供給方式が分かる)
- 7) エンジンの各文言定義
(圧縮比、上死点、下死点等各定義が分かる)
- 8)～9) 4 サイクルエンジン作動
(4 サイクルエンジンの基本的作動が分かる)
- 10) バルブタイミング
(IN 側、EX 側バルブの作動、オーバーラップが分かる)
- 11)～12) 燃焼
(理論空燃比、熱効率、エンジン各種損失が分かる)
- 13) シリンダ内圧力変化
(各燃焼期間及びガソリン・ディーゼルの燃焼の違いが分かる)
- 14)～15) エンジン本体各構造(ガソリンエンジン編)
(シリンダヘッドブロック・燃焼室形状等が分かる)
- 16) エンジン本体各構造(ディーゼルエンジン編)
(シリンダヘッドブロック、吸気ポート形状等が分かる)
- 17) シリンダヘッドガスケット構造機能
(ガスケットの種類、素材、役割が分かる)
- 18) シリンダブロック構造
(ガソリン・ディーゼルでの構造の違いとシリンダライナが分かる)
- 19) ピストン本体形状
(各形状による性能の違い、ピストン材質等が分かる)
- 20)～21) ピストンリング構造機能
(コンプレッションリング及びオイルリングの形状、材質、仕組み、種類が分かる)
- 22) コンロッド各部構造機能
(コンロッド各部名称及び各種機能、メタル素材、要求性能等が分かる)
- 23) クランクシャフト各部構造機能
(クランクシャフト各部名称及び素材、構造が分かる)

- 24) バルブ機構
(バルブ機構各構成部品、各部名称、素材、特徴、開閉機構等が分かる)
- 25) 前期末試験
- 26) 潤滑装置-1
(4 サイクル・2 サイクルの違い、オイルの循環経路が分かる)
- 27) 潤滑装置-2
(オイルポンプ・フィルタ・オイルパン等各装置が分かる)
- 28) 冷却装置-1
(冷却装置概要、ウォーターポンプ、ラジエータ等各装置が分かる)
- 29) 冷却装置-2
(ラジエータキャップ、サーモスタット、流路制御等が分かる)
- 30) 吸排気装置
(吸気排装置の構成が分かる)
- 31) 異常燃焼及び排気ガス
(ノッキング発生メカニズム及び排気ガス発生メカニズムが分かる)
- 32) 排気ガス浄化装置
(触媒コンバータの種類と仕組みが分かる)
- 33) 排気ガス対策及び燃料蒸発ガス装置
(EGR 装置・PCV バルブ・チャコールキャニスタが分かる)
- 34) 電子制御装置概要
(センサ・アクチュエータ・コンピュータの関係性が分かる)
- 35) 吸入空気センサ類
(吸入空気センサの必要性、構造・機能が分かる)
- 36) エンジン回転速度抑制装置及び電子制御式スロットル
(エンジン回転速度抑制装置及び電子制御式スロットルの必要性、構造・機能が分かる)
- 37) アクセルポジションセンサ及びインジェクタ
(アクセルポジションセンサの構造・機能、インジェクタの役割が分かる)
- 38) インジェクタ及びフューエルポンプ
(インジェクタ及びフューエルポンプの構造、役割が分かる)
- 39) エンジン各制御系センサ類
(クランク・カム角センサ、O₂ センサ及び温度センサの構造、役割が分かる)
- 40) ジーゼルエンジン燃料噴射装置導入
(ジーゼルエンジン燃料装置の概要導入)
- 41) インジェクションポンプの種類
(インジェクションポンプの種類と大まかな作動解説)

- 42) 列型インジェクションポンプの内部構造解説-1
(列型インジェクションポンプの構成部品と潤滑方式が分かる)
- 43) 列型インジェクションポンプの内部構造解説-2
(列型インジェクションポンプの構成部品とプランジヤの作動が分かる)
- 44) 列型インジェクションポンプ燃料噴射量の増減作動
(プランジヤ種類、デリバリバルブの機能が分かる)
- 45) 列型インジェクションポンプ、ガバナ機構解説
(ガバナの各部名称、構造、機能が分かる)
- 46) 列型インジェクションポンプ、タイマの機構解説
(タイマの各部名称、構造、機能が分かる)
- 47) フューエルフィードポンプの役割
(フューエルフィードポンプの機構、各部名称が分かる)
- 48) 分配型インジェクションポンプの構成部品と各部機能
(ドライブシャフト・ディストリビュータヘッドの機能構造が分かる)
- 49) 分配型インジェクションポンプ、プランジヤの作動
(プランジヤによる吸入、圧送、噴射終了、均圧作用の解説)
- 50) 分配型インジェクションポンプ、タイマ、ガバナの構造及びインジェクションノズル
(タイマ、ガバナの構造解説及びインジェクションノズルの構造機能解説)
- 51) コモンレール式燃料噴射装置
(コモンレール式燃料噴射装置の構成、構造機能の解説)
- 52) コモンレール式燃料噴射装置の制御方法
(コモンレール式燃料噴射装置の制御が分かる)
- 53) ロータリーエンジン
(ロータリーエンジン構造機能解説)
- 54) 後期学科内容総復習-1
(プリント等を用いて解説)
- 55) 後期学科内容総復習-2
(プリント等を用いて解説)
- 56) 後期期末試験

11. 備考・その他

エンジン構造について質問や不明な所がある場合は、事前に日時の相談をしてください。
メールでの質問も気軽にどうぞ。連絡が必要な場合は下記アドレスへメールしてください。
morishige@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : シャシ構造
2. 教育科目 : 専門科目 (自動車工学)
3. 担当者名 : 伊東 努 (日産系販売店にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級・二級・車体1年 前・後期 (56時間)
5. 使用テキスト : 「3級自動車シャシ」(日本自動車整備振興会連合会)
6. 授業の内容と方法

学科教室でテキストを使用して授業を進める。シャシ実習の内容と連携を取り、実習で学んだ内容と並行して授業を進めていく。プロジェクタでスクリーンに教科書の図を投影し、場合によっては部品を生徒に見せながら授業を進めていく。

7. 教科の到達目標

自動車シャシはフレームに始まり動力伝達装置・ステアリング・タイヤ・ブレーキと多種多様な自動車部品・構造を学ぶ学科である。初めて車を学ぶ者にとっては部品名称だけでも覚えるのが大変である為、授業内容を実習とリンクさせる事により、車が走る・曲がる・止まる仕組みを理論も含めて理解する。また、国家2級試験対策として、減速比及び車速を求める計算等も授業内容に取り入れ、計算能力も身に付ける。

8. 成績評価方法

前期・後期末に行う試験の点数が、60 点以上であることを学習到達度の評価とする。併せて、出席が必要とされる規定の授業時間数出席していること。両方の要件を満たした者を履修した者として合格とします。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

車の構造を理解する上で一番大切な事は、部品に興味を持つ事。エンジンの動力を伝えるクラッチの部品一つでも様々な工夫がしてあり、感心させられる事がたくさんある。単に名称・構造を覚えるのでは無く、車の造り込みの素晴らしさを感じて理解を深める事が大切。

10. 授業計画

- (1) 導入
(一年間の授業のあらまし・成績評価方法の説明・諸注意)
- (2) フレームとボデー
(自動車のボデーとフレームの意味、種類を言える)
- (3) フレームとボデー
(乗用車のフレームはモノコック・ボデーであり衝撃吸収ボデー構造であることを言える)
- (4) ウインドガラス
(ウインドガラスの種類を理解し、特徴、製造方法、割れた時の状態を言える)
- (5) アクスル及びサスペンション
(アクスル及びサスペンションの役目を理解し、車のどの部位が該当するか言える)
- (6) 車軸懸架式フロントアクスル
(車軸懸架式フロントアクスルがどのような部品で構成されているか言える)
- (7) 車軸懸架式リアアクスル
(車軸懸架式リアアクスルがどのような部品で構成されているか言える)
- (8)～(9) 車軸懸架式サスペンションの種類
(車軸懸架式サスペンションの種類を理解し、特徴を言える)
- (10) 独立懸架式アクスル
(独立懸架式のアクスルはどの部品が該当し、そして特徴を言える)
- (11)～(12) 独立懸架式のサスペンション
(独立懸架式のサスペンションのストラット型とウイッシュボーン型の構造、特徴を言える)
- (13)～(15) シャシスプリング
(シャシスプリングの種類と特徴を理解し、各種スプリングのばね定数変化を言える)
- (16) ショック・アブソーバ
(ショック・アブソーバの必要性と種類を理解し言える)
- (17) 動力伝達装置の構成
(動力伝達装置の役目、構成する装置を覚えて言える)
- (18) クラッチの概要
(クラッチの必要性、トランスミッションの違いでクラッチにどのような種類があるか言える)
- (19) ダイヤフラム・スプリング式クラッチ
(ダイヤフラム・スプリング式クラッチの作動説明が言える)

- (20) コイル・スプリング式クラッチ
(コイル・スプリング式クラッチの作動説明が言える)
- (21) クラッチ操作機構
(クラッチ操作機構の種類、各々の構造作動を理解し言える)
- (22) トランスミッションの概要
(トランスミッションの役目を理解し、変速比などの原理を理解し言える)
- (23) 変速比の計算
(2組のギヤを組み合わせたトランスミッションの変速比計算を理解し言える)
- (24) マニュアル・トランスミッションの構造
(マニュアル・トランスミッションの構造・作動や各 부품の役目を覚えて言える)
- (25) 前期末試験
- (26) イナーシャ・ロック・キー式のシンクロメッシュ機構・1
(イナーシャ・ロック・キー式のシンクロメッシュ機構の必要性を言える)
- (27) イナーシャ・ロック・キー式のシンクロメッシュ機構・2
(イナーシャ・ロック・キー式のシンクロメッシュ機構の部品の名称、各々の役目を言える)
- (28)～(29) イナーシャ・ロック・キー式のシンクロメッシュ機構・3
(イナーシャ・ロック・キー式のシンクロメッシュ機構の作動を覚えて言える)
- (30) トランスミッションの操作機構
(操作機構の種類、特徴及びインタロック機構・ギヤ抜け防止機構の種類、作動を言える)
- (31)トランスファ
(トランスファの役目、種類と特徴を言える)
- (32) プロペラ・シャフト及びドライブ・シャフト
(プロペラ・シャフト及びドライブ・シャフトの役目、構造、作動を言える)
- (33) フック・ジョイント
(フック・ジョイントの長所・短所、構造及び等速ジョイントの長所・短所、構造が言える)
- (34) ファイナル・ギヤ
(ファイナル・ギヤの役目、構造、種類及び終減速比、総減速比が言える)
- (35) ディファレンシャル
(ディファレンシャルの構造、作動、動力伝達及び左右輪の回転速度の計算が言える)
- (36) ステアリング装置の概要
(ステアリング装置の役目を理解し、アッカーマン・ジャントの原理を言える)

- (37) ステアリング操作機構
(ステアリング操作機構の構造を理解し、運転者に対する安全対策などを言える)
- (38) ステアリング・ギア機構
(ギヤ機構の役目を理解し、ラック・ピニオン型とボール・ナット型の構造作動が言える)
- (39) ステアリング・リンク機構
(ギヤの違い、懸架方式の違いによるリンク機構の構造、作動が言える)
- (40) パワー・ステアリング・1
(パワー・ステアリングの役目、油圧式の構成、種類が言える)
- (41) パワー・ステアリング・2
(油圧式ロータリ・バルブ作動、電動式パワー・ステアリングの種類作動が言える)
- (42) ブレーキ装置概要
(ブレーキの役目・原理及びブレーキ装置の種類が言える)
- (43)～(44) ブレーキ操作機構
(ブレーキ操作機構のブレーキペダル、マスタシリンダの役目及び種類、作動が言える)
- (45) ブレーキ装置操作機構
(ブレーキ装置操作機構のブレーキパイプ及びホースについて種類・構造が言える)
- (46) ドラム式油圧ブレーキ・1
(乗用車と大型トラックのブレーキ・シューの違い、ブレーキ・ライニングの材質が言える)
- (47)～(48) ドラム式油圧ブレーキ・2
(ブレーキの種類と特徴が言える)
- (49) ブレーキ・ドラム及びホイールシリンダ
(ブレーキ・ドラム及びホイールシリンダの種類、特徴が言える)
- (50) ディスク式油圧ブレーキ・1
(ディスク式油圧ブレーキのドラム・ブレーキと比較しての特徴、種類が言える)
- (51) ディスク式油圧ブレーキ・2
(ディスク・パッドの材質及びディスク・ブレーキの自動調整を理解して作動を言える)
- (52) アンチ・ロック装置・1
(アンチ・ロック装置の種類を言える)
- (53) アンチ・ロック装置・2
(Pバルブの構造が言える)

- (54) アンチ・ロック装置・2
(Pバルブの作動が言える)
- (55) アンチ・ロック装置・3
(ロード・センシング・プロポーショニング・バルブの構造、作動が言える)
- (56) 後期末試験

11.備考・その他

授業の内容について質問や不明な所がある場合は、放課後に必ず質問し解決すること。

その他連絡が必要な場合は、次のアドレスへメールすること。

t-ito@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容：電装品構造
2. 教育科目：専門科目(自動車工学)
3. 担当者：柳井 寛翔(ホンダ系自動車会社にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間)：一級、二級、車体1年・通期(56時間)
5. 使用テキスト：三級自動車ガソリン・エンジン(日本自動車整備振興会連合会)
三級自動車ディーゼル・エンジン(日本自動車整備振興会連合会)
三級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会)
電装品構造(全国自動車大学校・整備専門学校協会)

6. 授業の内容と方法

学科教室において、テキストを使用し、授業を進める。テキスト内画像はプロジェクタで投影する。大切な所は板書するので、ノートに書く。また、テキストに線を引く。その部分を復習する。授業始めに、復習プリントを実施する。

7. 科目の到達目標

自動車整備士の国家資格取得をめざす専門学校生として必要な知識を身に付けさせる。自動車の構造的な面だけでなく、三級整備士レベルの整備作業ができるように点検の要点もしっかりと理解する。

8. 成績評価方法

学期末に行う試験の点数と授業態度及び出席状況を反映させた平常点を合算し、前期及び後期の評価点を算出する。なお、その平均を通期における評価点とし、この点数が60点以上、且つ規定の授業時間数以上出席した者のみを合格とする。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

この授業を正しく理解するためには予習が大切。授業の前に教科書を読んでおき授業に臨めば理解も深まる。また、授業始めに復習プリントをおこなうので、前回授業の復習を行ったほうが良い。

10. 授業計画

- 1) 自動車の電装品と電気の3大要素
(電気の3大要素を答えることができる)
- 2) バッテリーの概要と種類
(バッテリーの役目と種類を答えることができる)
- 3) バッテリーの内部構造1
(バッテリーの内部構成部品とその役目を答えることができる)
- 4) バッテリーの内部構造2 バッテリーの形式表示
(バッテリーの内部構造と、形式表示について説明できる)
- 5) バッテリーの放電・充電
(バッテリーの放電・充電時の化学変化を説明できる)
- 6) バッテリーの容量と放電率
(容量と放電率についての説明、計算ができる)
- 7) バッテリーの起電力、自己放電
(バッテリーの起電力を左右する要因と、自己放電について説明できる)
- 8) バッテリーの液量、比重
(バッテリーの液量の整備の説明と、比重計算ができる)
- 9) バッテリーの充電方法、充電整備1
(バッテリー充電の目安と、充電方法について説明できる)
- 10) バッテリーの充電整備2
(バッテリーの急速充電時の注意点と、充電作業の注意点を説明できる)
- 11) ブースタケーブルの接続、バッテリーの内部抵抗
(ブースタケーブルの接続順序を答えることができ、バッテリーの内部抵抗について説明できる。)
- 12) バッテリー交換作業、走行用バッテリー
(バッテリー交換作業時の注意点と、走行用バッテリーの種類を答えることができる)
- 13) 始動装置の概要、種類、特徴
(始動装置の役目、種類、特徴を答えることができる)
- 14) 始動装置の構造1
(始動装置の構造を説明できる)
- 15) 始動装置の構造2、作動
(始動装置の構造、作動を説明できる)
- 16) 始動装置の整備、アイドルストップ車用スタータ
(始動装置の整備時の注意点を答えることができ、アイドルストップ車用スタータの構造を説明できる)

- 17) 半導体の概要と種類、ダイオード、
(半導体の特性と種類、ダイオードの特性を答えることができる)
- 18) ツェナダイオード、発光ダイオード、フォトダイオード、トランジスタ
(ツェナダイオード、発光ダイオード、フォトダイオード、トランジスタの特性を説明できる)
- 19) フォトトランジスタ、サーミスタ、IC
(フォトダイオードと、トランジスタの特性を説明できる)
- 20) 充電装置の概要
(充電装置の役目、種類、特徴を答えることができる)
- 21) 充電装置の構造1
(充電装置のロータ、ステータの構造を説明できる)
- 22) 発電の原理、整流
(発電の原理、交流を直流へ変換する方法を説明できる)
- 23) 充電装置の起電力制御
(ボルテージレギュレータによる発電電圧の制御の方法を説明できる)
- 24) 前期のまとめ
(各装置の特徴を口述できる)
- 25) 前期試験
- 26) 充電装置の整備
(充電装置の整備時の注意点を答えることができる)
- 27) 充電制御システム付オルタネータ、点火装置の概要
(充電制御システム装着の目的と、点火装置の役目を答えることができる)
- 28) 点火装置の構成、イグニッションコイルの種類
(点火装置の構成部品と、イグニッションコイルの種類を答えることができる)
- 29) イグニッションコイル、自己誘導作用
(イグニッションコイルの構造を答えることができ、自己誘導作用について説明できる)
- 30) 相互誘導作用、昇圧された電圧
(相互誘導作用について説明でき、イグニッションコイルに発生する電圧を計算で求めることができる)
- 31) 一次電流、時定数
(一次電流の立ち上がり方を図解できる)
- 32) 点火時期
(点火時期を決める2大要素を答えることができる)
- 33) 気筒別独立点火方式、スパークプラグ

- (気筒別独立点火方式の特徴と、スパークプラグの各部名称について説明できる)
- 34) スパークプラグの構造、熱価
(スパークプラグの構造と、熱価について説明できる)
- 35) スパークプラグと温度
(スパークプラグの適切な温度域を答えることができる)
- 36) 点火装置の点検
(スパークプラグとイグニッションコイルの点検時の注意点を説明できる)
- 37) 予熱装置
(予熱装置の種類を答えることができる)
- 38) 灯火装置のランプの光源、ヘッドライト
(ランプの光源の種類と、2灯式・4灯式の違いを説明できる)
- 39) 灯火装置のヘッドライト、その他のランプ1
(灯火回路と、その他のランプの役目を説明できる)
- 40) 灯火装置のその他のランプ2、ヒューズ、ヒューズブルリンク、リレー
(ヒューズとヒューズブルリンクの違いを説明できる)
- 41) 灯火装置の点検、整備1
(ヘッドライトの点検結果から、不具合箇所の推定ができる)
- 42) 灯火装置の点検、整備2
(ヘッドライト以外の灯火装置の点検方法を答えることができる)
- 43) 計器 スピードメータ
(スピードメータの種類を答えることができる)
- 44) 計器 その他のメータ、警告灯
(どういう信号に基づいてメータ、警告灯が作動するのか答えることができる)
- 45) 計器の点検1
(スピードメータの保安基準を答えることができる)
- 46) 計器の点検2
(警告灯点灯の条件を答えることができる)
- 47) ホーン、ワイパ1 ワイパモータ
(ホーンの作動と、ワイパモータの種類を答えることができる)
- 48) ホーン、ワイパ2 ワイパの構造、ホーンの整備
(ワイパの構成部品と、ホーンの保安基準を答えることができる)
- 49) ホーン、ワイパ3 ワイパの整備
(ワイパの保安基準と、ウォッシャの点検方法を答えることができる)
- 50) 冷暖房装置の概要、構成
(冷暖房装置の役割と、構成部品を答えることができる)

- 51) 冷暖房装置の冷凍サイクル、冷媒
(冷凍サイクルと冷媒の種類を答えることができる)
- 52) 暖房装置の仕組み、冷暖房装置の整備
(暖房装置の仕組みと、冷暖房装置の整備時の注意点を答えることができる)
- 53) 電気装置の配線
(ワイヤーハーネスとは何かと、多重通信の種類を答えることができる)
- 54) 充電回路の作動の復習
(充電回路の作動を口述できる)
- 55) 点火装置の復習
(点火装置の構成部品、作動、スパークプラグに求められる性能を口述できる)
- 56) 後期試験

11. 備考・その他

授業の内容についての質問や不明な点がある場合は、放課後必ず質問し、解決すること。
その他連絡が必要な場合は、次のアドレスへメールすること。yanai@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容： 二輪自動車構造
2. 教育科目： 専門科目(自動車工学)
3. 担当者： 柳井 寛翔(ホンダ系自動車会社にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間)： 一級、二級、車体1年・通期(29時間)
5. 使用テキスト： 三級二輪自動車(日本自動車整備振興会連合会)
6. 授業の内容と方法

学科教室において、テキストを使用し、授業を進める。テキスト内画像はプロジェクタで投影する。大切な所は板書するので、ノートに書く。また、テキストに線を引く。その部分を復習する。

7. 科目の到達目標

自動車整備士の国家資格取得をめざす専門学校生として必要な知識を身に付けさせる。自動車の構造的な面だけでなく、三級整備士レベルの整備作業ができるように点検の要点もしっかりと理解する。

8. 成績評価方法

学期末に行う試験の点数と授業態度及び出席状況を反映させた平常点を合算し、前期及び後期の評価点を算出する。なお、その平均を通期における評価点とし、この点数が60点以上、且つ規定の授業時間数以上出席した者のみを合格とする。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

この授業を正しく理解するためには予習が大切。授業の前に教科書を読んでおき授業に臨めば理解も深まる。また、練習問題をおこなうので、前回授業の復習を行ったほうが良い。

10. 授業計画

- 1) 内燃機関 4サイクルエンジン、2サイクルエンジン、燃焼、点火、着火
(各エンジンを種類ごとに分類できる)
- 2) 内燃機関 冷却方式、2サイクルエンジンの作動
(空冷式の種類と、2サイクルエンジンの作動を説明できる)
- 3) エンジン本体 シリンダヘッド、シリンダ、ピストン
(シリンダヘッド、シリンダ、ピストンの役目と特徴を答えることができる)
- 4) エンジン本体 コンロッド、クランクシャフト、フライホイール 潤滑装置 概要
(コンロッド、クランクシャフトの種類を答えることができ、フライホイールの特徴、潤滑装置の役目を説明できる)
- 5) 潤滑装置 特徴、点検・整備 冷却装置 概要
(潤滑装置の特徴、点検・整備時の注意点、冷却装置の役目を答えることができる)
- 6) 冷却装置 空冷式の特徴、点検・整備 燃料装置 概要、キャブレータ
(空冷式の特徴、点検・整備の要点、燃料装置の役目について説明できる)
- 7) 燃料装置 ベンチュリ、フロート系統
(ベンチュリの特徴、種類、フロート系統の作動を説明できる)
- 8) 燃料装置 スロー系統、メイン系統、始動系統
(キャブレータの各系統の作動を説明できる)
- 9) 燃料装置 点検・整備 吸排気装置 エアクリーナ
(燃料装置の点検・整備の時期と、エアクリーナの特徴を答えることができる)
- 10) 吸排気装置 マフラ、排出ガス浄化装置
(マフラの特徴、保安基準、ブローバイガス還元装置の必要性を説明できる)
- 11) 前期総合復習
(前期学習した内容の練習問題を解くことができる)
- 12) 前期試験
- 13) 電子制御装置 概要、転倒センサ 動力伝達装置 概要、クラッチ
(電子制御装置の特徴、転倒センサの役割、動力伝達装置のクラッチの種類を答えることができる)
- 14) 動力伝達装置 湿式多板クラッチ、クラッチの点検・整備
(湿式多板クラッチの構造、クラッチの点検・整備時の要点を答えることができる)
- 15) 動力伝達装置 トランスミッション
(変速比の計算、トランスミッションの種類を答えることができる)
- 16) 動力伝達装置 駆動装置、キック始動装置

(駆動装置の種類、点検・整備時の要点、キック始動装置の特徴を答えることができる)

17) アクスル及びサスペンション

(アクスルの役割、サスペンションの種類を答えることができる)

18) ステアリング装置 ホイール及びタイヤ

(ハンドルの種類、回転部の特徴と、ホイール及びタイヤに求められる性能を答えることができる)

19) ホイール及びタイヤ 種類、トレッド

(ホイール及びタイヤの種類、トレッドパターンの種類を答えることができる)

20) タイヤの構造、ホイールバランス

(タイヤの構造、ホイールバランスの種類について説明できる)

21) ホイールアライメント ブレーキ装置

(ホイールアライメントの役割と、ブレーキ装置の点検・整備時の要点を答えることができる)

22) フレーム 動力伝達装置の整備

(フレームの種類と、動力伝達装置の整備時の注意点を説明できる)

23) 電気装置 バッテリー、始動装置、充電装置、点火装置

(バッテリー・充電装置の種類、始動・点火装置の特徴を答えることができる)

24) 電気装置 点火装置の種類、点検・整備

(点火装置の種類、点検・整備時の要点を答えることができる)

25) 灯火装置 概要、構造、種類

(灯火装置の役割、構造、種類を答えることができる)

26) 計器 ホーン

(計器の役割、構造と、ホーンの構造を説明できる)

27) 電気装置 整備

(電気装置の点検方法、整備時の注意点を答えることができる)

28) 後期総合復習

(後期学習した内容の練習問題を解くことができる)

29) 後期試験

11. 備考・その他

授業の内容についての質問や不明な点がある場合は、放課後必ず質問し、解決すること。その他連絡が必要な場合は、次のアドレスへメールすること。yanai@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : 自動車総論
2. 教育科目 : 専門科目(自動車工学)
3. 担当者 : 森 高浩 (日産系自動車会社にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級、二級、車体 1年 ・ 前期(13時間)
5. 使用テキスト : 基礎自動車工学(日本自動車整備振興会連合会)
6. 授業の内容と方法

学科教室において、テキストを使用し授業を進める。テキスト内画像はプロジェクタで投影し、大切な所は板書を行うので、ノートに書き取って復習をすること。

7. 科目の到達目標

自動車整備士の国家資格取得をめざす専門学校生として必要な知識を身に着ける。自動車の構造だけでなく、道路運送車両法に基づく法令も理解する。

8. 成績評価方法

学期末に行う試験の点数と出席状況を反映させた出席点を合算し評価点する。この評価点が60点以上、且つ規定の授業時間以上出席した者を合格とする。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

この授業を正しく理解するためには予習が大切。授業の前に教科書を読んでおき授業に臨めば理解も深まる。また、教科書以外の内容もあるので、ノートは確実に取ること。

10. 授業計画

- 1) 導入
(自動車の定義が分かる)
- 2) 自動車用語の説明
(CO・HC・NO_x・燃費等の意味が分かる)

- 3) 道路運送車両法－1
(軽自動車の定義が言える)
- 4) 道路運送車両法－2
(普通自動車・小型自動車の定義が分かる)
- 5) 自動車の駆動方式(前輪駆動)
(フロントエンジン・フロントドライブの仕組みと特徴が分かる)
- 6) 自動車の駆動方式(後輪駆動－1)
(フロントエンジン・リヤドライブの仕組みと特徴が分かる)
- 7) 自動車の駆動方式(後輪駆動－2)
(ミッドシップエンジン及びリヤエンジン・リヤドライブの仕組みと特徴が分かる)
- 8) フレーム及びボデー
(フレームとボデーの違いが分かる)
- 9) 灯火装置
(灯火装置の名称と灯火の色が分かる)
- 10) メーターとインジケータ
(各メーターやインジケータの意味が分かる)
- 11) 安全装置
(各メーターやインジケータの意味が分かる)
- 12) 自動車の諸元
(自動車の諸元表が分かる)
- 13) 期末試験

11. 備考・その他

授業の内容について質問や不明な所がある場合は、放課後に必ず質問し解決すること。
その他連絡が必要な場合は、次のアドレスへメールすること。 t-mori@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : 自動車の力学
2. 教育科目 : 専門科目(自動車工学)
3. 担当者 : 上田 雄一 (トヨタ系販売店にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級、二級、車体 1年 ・前・後期 (29 時間)
5. 使用テキスト : 基礎自動車工学(日本自動車整備振興連合会 編)
自作プリント

6. 授業の内容と方法

学科教室で、テキスト・プロジェクトを使用し授業を進める。大切な所は板書を行うのでノートにとって復習すること。セクション終了時には練習問題で理解力を確認する。

7. 科目の到達目標

国家試験に出題される計算問題を解く上で必要となる基礎原理、法則、公式を理解し、日頃馴染みのない法則を応用し計算が出来るようになる。
また、習熟することで一般に苦手とされる計算問題に自信を持ちます。

8. 成績評価方法

前期・後期末に行う試験の点数が、60点以上であることを学習到達度の評価とする。
合わせて、出席が必要とされる規定の授業時間数を出席していること。
両方の要件を満たした者を履修した者をして合格とします。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

授業を正し理解する為に、中学程度の数学と理科(物理関係)の復習を行うこと。

10. 授業計画

1) 導入

授業、時間数説明、自動車工学に対する抵抗を無くすことが出来る。

2) 国際単位系(SI 単位)

(SI 単位の説明が出来る。)

3) 熱と物質

(熱量と物質の変化を図に出来る。)

4) 熱と温度

(熱量の説明が出来る。)

5) 熱の移動

(伝導、対流、放射の違いが言える。)

6) 熱膨張(熱膨張係数について)

(熱膨張の現象が説明出来る。)

7) 物体に働く摩擦について

(摩擦とは何か、説明が出来る。)

8) 滑り摩擦と転がり摩擦

(摩擦の種類を熟知する。)

9) トルク

(トルクを理解し、計算によりトルクを求めることが出来る。)

10) 偶力

(偶力が説明でき、計算により偶力を求めることが出来る。)

11) 力の釣り合い

(力とは何かを理解し、軸重計算を柔軟に考えられる基礎を養う。)

12) 重さと支点の関係・重さの配分

(重さと支点の関係、重さの配分により軸重の計算が行える。)

13) てこの原理・てこの釣り合い関係

(軸重の計算がより柔軟に考えられるようになる。)

14) 歯車の回転とギヤ比

(歯車の回転とトルクの計算が行える。)

15) ギヤ比とトルク

(歯車の歯数比による回転速度と力の関係性が説明出来る。)

16) 前期試験

17) 排気量、総排気量

(柔軟な理解が出来るように、排気量を理解する。)

- 18) 圧縮比
(排気量と同様、柔軟に圧縮比が理解出来る。)
- 19) 平均ピストン速度
(ピストンとクランクシャフトの関係を考え、ピストン速度を求めることが出来る。)
- 20) 圧力の定義、単位の成り立ち、パスカルの原理
(圧力の仕組みを理解し、パスカルの原理の説明が出来る。)
- 21) 速度・加速度
(時速から秒速への換算が出来る。加速度の計算が行える。)
- 22) 速度 平均速度・走行距離・演習
(自動車の構造から考え、回転速度の変化を一つ一つ行える。)
- 23) 速度 車両速度の算出・演習
(前回の内容より、より高度な計算方法が出来る。)
- 24) 駆動力 総減速比・エンジントルクからアクスルシャフトの回転トルク・演習
及び アクスルシャフトの回転トルクからタイヤトルク駆動力・演習
(自動車の構造から考え、トルク変化の計算を一つ一つ行える。)
- 25) 仕事率 速度の力の仕事率・演習/走行抵抗と速度での仕事率
(仕事が説明でき、速度と力の仕事率を考えることが出来る。)
- 26) 仕事率 坂を上昇する車両の必要仕事率
(登坂能力の説明が出来る。)
- 27) 仕事とエネルギー
(仕事に関する総合問題を解くこと出来る。)
- 28) 燃費消費率 燃費の比重・燃料消費率
(燃費計算が出来る。)
- 29) 後期試験

備考・その他

力学について質問や不明な所がある場合は、事前に日時の相談をして下さい。連絡が必要な場合は下記アドレスへメールすること。

ueda@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容： 電気工学
2. 教育科目： 専門科目（自動車工学）
3. 担当者名： 野口 義夫（日産系販売店にて自動車整備に従事）
4. 履修学年・学期： 一級・二級・車体1年 前期 13 時間
5. 使用テキスト： 「電装品構造」（全国自動車整備専門学校協会 編）
「基礎自動車工学」（日本自動車整備振興会連合会）

6. 授業の内容と方法

電気の基本的な事項、法則、原理等について学習する。
学科教室において教科書・プロジェクタ・板書等を使用して授業を進める。
板書は、ノートにとって復讐すること。

7. 科目の到達目標

近年、自動車における電気装置は重要な役割を果たし、多くの装置に電子制御が取り入れられている。生活の中でも電気製品に埋もれ、利用はしているもののその原理までは理解していない。この電気・電子理論については幾つかの大切な基本原理を学ぶことにより、自動車整備に必要な知識を理解する。

8. 成績評価方法

前期末に行う試験の点数が、60点以上であることを学習到達度の評価とする。併せて、出席が必要とされる規定の授業時間数出席していること。
両方の要件を満たした者を履修した者として合格とします。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

この授業を正しく理解するためには予習が大切、授業の前に教科書を読んでおき授業に臨めば理解も深まる。教科書以外の内容もあるのでノートに記入しておくこと。

10. 授業計画

1) 概要

(電気工学を勉強する必要性がわかる)

2) 電流とは何か

(電流とは何かがわかる)

3) 電圧・電気抵抗について

(電圧及び電気抵抗が何かわかる)

4) 電気回路について

(簡単な電気回路を書くことができる)

5) オームの法則について

(オームの法則により電圧・電流・抵抗が求めることができる)

6) 回路の計算①

(抵抗の直列接続と並列接続の電流・電圧・抵抗の計算ができる)

7) 回路の計算②

(スイッチ付きの回路のON/OFF時の回路間の電圧が求められる)

8) 回路の計算③

(電線の許容電流とヒューズの役目がわかる)

9) 磁気について①

(右ねじの法則、右手親指の法則がわかる)

10) 磁気について②

(フレミングの左手の法則がわかる)

11) 磁気について③

(発電の原理がわかる)

12) 磁気について④

(自己誘導作用・相互誘導作用がわかる)

13) 期末試験

11. 備考・その他

電気工学について質問や不明の所がある場合は、事前に日時の相談をしてください。
連絡が必要な場合は下記アドレスへメールすること。

noguchi@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : 燃料・油脂
2. 教育科目 : 専門科目(自動車工学)
3. 担当者 : 盛重 航平 (BMW系自動車会社にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級、二級、車体 1年 ・ 前期(13時間)
5. 使用テキスト : 「内燃機関、燃料・油脂」(全国自動車整備専門学校協会 編)

6. 授業の内容と方法

学科教室において、テキストを使用し授業を進める。テキスト内画像はプロジェクタで投影し、大切な所とテキストは板書を行うので、ノートを取って復習をすること。

7. 科目の到達目標

自動車に使用される燃料及び油脂類について、その組成を学習するとともに定義されている規格についてのとらえ方を学ぶ。

8. 成績評価方法

前期末に行う試験の点数と出席状況を反映させた出席点を合算し評価点とする。この評価点が60点以上、且つ規定の授業時間以上出席した者を合格とする。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

この授業を正しく理解するためには予習が大切、授業の前に教科書を読んでおき授業に臨めば理解も深まる。また、教科書以外の内容もあるので、ノートは確実にとること。

10. 授業計画

- 1) 導入、燃料について
(燃料の違いと分類が分かる)
- 2) 各種燃料の精製法(蒸留及び精製)及び燃料の性状
(各種燃料の精製方法が分かる)
- 3) ガソリンの性状と規格(1)
(ガソリンの性質とオクタン価が分かる)

- 4) ガソリンの性状と規格(2)
(ガソリンに含まれる添加剤の役割が分かる)
- 5) 軽油の性状と規格(1)
(軽油の性質とセタン価が分かる)
- 6) 軽油の性状と規格(2)
(軽油の規格と燃料取り扱い上の注意が分かる)
- 7) LP ガスの性状と規格
(LP ガスと天然ガスの性質が分かる)
- 8) 潤滑及び潤滑剤(1)
(潤滑状態と潤滑油の性状及び潤滑剤の作用が分かる)
- 9) 潤滑及び潤滑剤(2)
(エンジンオイルの分類とオイル添加剤の役割が分かる)
- 10) 作動油・その他(1)
(ギヤオイルとATF 及び CVT フルードの作用、特性が分かる)
- 11) 作動油・その他(2)
(ブレーキ液とグリースの性質、規格が分かる)
- 12) 不凍液
(クーラントの性能、規格が分かる)
- 13) 前期末試験

11. 備考・その他

燃料・油脂について質問や不明な所がある場合は、事前に日時の相談をしてくださると助かります。メールでの質問もお気軽にどうぞ。連絡が必要な場合は下記アドレスへメールしてください。

✉ morishige@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容：整備作業機器
2. 教育科目：専門科目（機器の構造取扱）
3. 担当者名：盛重 航平（BMW 系販売店にて自動車整備に従事）
4. 履修学年・学期：一級・二級・車体1年 前・後期
5. 使用テキスト：「自動車整備工具・機器」（全国自動車整備専門学校協会 編）

6. 授業の内容と方法

自動車の整備作業には多種多様な工具や機器類が使用され能率向上や品質安定に寄与している。したがって構造・機能、使用方法に重点を置いた内容とする。

学科教室において、国家試験に基づくオリジナル問題等を作成し授業を進める。なお、適宜小テストを行い理解力を確認する。また、極力実物を持参し、理解力を深める教育を行う。

7. 科目の到達目標

国家二級自動車整備士試験に出題される問題に対応できるようにする。国家試験問題に出題傾向はあるが、それに幅を持たせたオリジナル問題も解けるようにする。

8. 成績評価方法

前期・後期末に行う試験の点数が、60 点以上であることを学習到達度の評価とする。併せて、出席が必要とされる規定の授業時間数出席していること。

両方の要件を満たした者を履修した者として合格とします。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

理解するためには予習が大切である。授業の前に教科書を読み、予備知識を付けてから授業に臨むこと。教科書以外の内容もあるので、ノートをしっかり執ること。

10. 授業計画

- 1) 第2章 工具 導入、工具概要
(1年間の授業の進め方や学習の仕方が分かる。工具の概要を理解できる)
- 2) 第2章 工具 工具の分類・取り扱いについて
(工具の種類が分かる)
- 3) 第2章 工具 ソケットレンチについて
(レンチの種類、使用方法を理解できる)
- 4) 第2章 工具 ドライバーについて
(ドライバーの取り扱い方法を理解できる)
- 5) 第2章 工具 ペンチについて
(ペンチの特徴、種類を理解できる)
- 6) 第2章 工具 たがね、タップについて
(タップの用途、種類を理解できる)
- 7) 第2章 工具 ダイスについて
(ダイスを理解できる)
- 8) 前期中間授業の練習問題および、バイス、弓ノコについて
(バイス、弓ノコの使用方法について理解できる)
- 9) 第3章 作業用機器 リーマ、プーラ、インパクトレンチについて
(プーラの種類、用途を理解できる)
- 10) 第3章 作業用機器 卓上ボール盤
(卓上ボール盤の種類が分かる)
- 11) 第3章 作業用機器 研削砥石について
(研削砥石および、グラインダーについて理解できる)
- 12) 第3章 作業用機器 ジャッキ類について
(ジャッキの用途および、種類が分かる)
- 13) 第4章 一般測定器 一般測定器、ノギスについて
(ノギスの読み方について理解できる)
- 14) 第4章 一般測定器 マイクロメータについて
(マイクロメータの読み方が分かる)
- 15) 前期授業の練習問題および、ダイヤルゲージについて
(ダイヤルゲージの用途および、読み方が分かる)
- 16) 前期末試験
- 17) 第4章 一般測定器 ダイヤルゲージ、シリンダゲージについて
(測定・使用方法を理解できる。シリンダ内径の測定値計算ができる)

- 18) 第4章 一般測定器 キャリパゲージ、シックネスゲージについて
(キャリパゲージの使用方法を理解できる)
- 19) 第4章 一般測定器 トルクレンチ、スプリングテスタについて
(トルクについて理解すると共にトルクレンチについて理解できる)
- 20) 第5章 エンジン点検・調整機器 エンジン回転計について
(ドエル・タコテスタについて理解できる)
- 21) 第5章 エンジン点検・調整機器 タイミングライト、コンプレッションゲージについて
(タイミングライトおよび、コンプレッションゲージの使用方法を理解できる)
- 22) 後期中間授業の練習問題および、バキュームゲージについて
(バキュームゲージについて理解できる)
- 23) 第5章 エンジン
(エンジンスコープの波形の読み方が分かる)
- 24) 第6章 電気装置点検・調整機器 噴射ポンプテスタ、サーキットテスタについて
(噴射時期を理解できる)
- 25) 第6章 電気装置点検・調整機器 オシロスコープ、バッテリーテスタについて
(オシロスコープの見方を理解できる)
- 26) 第7章 電気装置点検・調整 外部診断機について
(外部診断機の扱い方を理解できる)
- 27) 第7章 電気装置点検・調整 ホイールバランサについて
(オンザカー式ホイールバランサとオフザカー式ホイールバランサの違いが分かる)
- 28) 後期授業の練習問題
- 29) 後期末試験

11. 備考・その他

エンジン構造について質問や不明な所がある場合は、事前に日時の相談をすること。
その他連絡が必要な場合は、下記のアドレスへメールすること。

morishige@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : 手仕上げ・機械工作
2. 教育科目 : 実習 (工作作業)
3. 担当者名 : 伊東努 (日産系販売店にて自動車整備に従事)
柳井寛翔 (ホンダ系販売店にて自動車整備に従事)
盛重 航平 (BMW 系販売店にて自動車整備に従事)
江嶋 涼子 (日産系販売店にて自動車整備に従事)
稲益 利己 (トヨタ系販売店にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期 : 一級・二級・車体1年 前期 36時間
5. 使用テキスト : 自動車整備工具・機器 (全国自動車整備専門学校協会 編)
基礎自動車工学 (日本自動車整備振興会連合会)

6. 授業の内容と方法

実習教室で座学では、テキスト・プロジェクタ・手仕上げ・機械工作に必要な工具、溶接機器を使用して授業を進める。重要な内容に対しては板書を行い、ノートを取ってもらう。テキスト等にもラインを引き、現場での作業に活かすためにしっかり理解してもらう。実作業では、座学で学んだことを活かして安全に作業をしてもらう。

7. 科目の到達目標

自動車には様々な金属材が使用されているのでその性質を知った上で取り扱うことが必要となる。ここでは金属材の加工や仕上げ作業を通じて、技能力向上と機械工具類の安全な取り扱い方法を修得する。

8. 成績評価方法

各サイクル後に行う試験(60%)レポート(30%)出席(10%)での評価点が60点以上、且つ規定の授業時間以上出席していること。両方の要件を満たした者を履修した者とする。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

1. 授業時間が少ないため、欠席をしないように気をつけること。
2. 安全意識を持つことと積極的に作業することが大切である。

10. 授業計画

第5サイクル

・溶接作業

(アーク溶接による器具の取り扱い、溶接作業ができる)

・手仕上げ・機械工作作業

ボルト・ナット製作

(手仕上げによる弓のこ、やすり、タップ、ダイス、旋盤、ボール盤などの機器の取り扱いが言える)

11. 備考・その他

授業の内容について質問や不明な所がある場合は、放課後に必ず質問し解決すること。

その他連絡が必要な場合は、次のアドレスへメールすること。

t-ito@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容： 基本計測
2. 教育科目： 実習（測定作業）
3. 担当者名： 伊東努（日産系販売店にて自動車整備に従事）
柳井寛翔(ホンダ系販売店にて自動車整備に従事)
盛重 航平（BMW 系販売店にて自動車整備に従事）
江嶋 涼子(日産系販売店にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期： 一級・二級・車体 1年
第1サイクル、第2サイクル、第8サイクル 32時間
5. 使用テキスト： 三級自動車ガソリンエンジン(日本自動車整備振興会連合会)
電装品構造(全国自動車整備専門学校協会 編)
自動車整備工具・機器(全国自動車整備専門学校協会 編)

6. 授業の内容と方法

ノギス、マイクロメータ、シリンダ・ゲージ、サーキットテスタなどを実際に使いながら、測定に方法を説明し、実際に測定をおこなって正確な測定方法を身に付ける。

7. 科目の到達目標

自動車整備に関わる基本的な測定機による測定が正確にできること。

8. 成績評価方法

各サイクル後に行う試験(60%)レポート(30%)出席(10%)での評価点が60点以上、且つ規定の授業時間以上出席していること。両方の要件を満たした者を履修した者とする。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

履修時間が分散しているので時間数に注意してほしい。
測定作業の重要性を事前に十分理解する。測定機器は精密機械であるので、取り扱いにはくれぐれも注意すること。

10. 授業計画

第1サイクル

1)サーキットテスタによる測定 (4時間)

- ・ 測定レンジとメモリが読める
- ・ 測定時の注意事項がわかる

2)測定機器の取扱い (20時間)

- ・ ノギス、マイクロメータ、ダイヤルゲージ、シリンダ・ゲージ、トルクレンチ、ストレートエッジによる測定ができる。

第2サイクル

サーキットテスタによる測定 (4時間)

- ・ サーキットテスタにより抵抗・電圧・電流などが正確に測定できるようにする。
- ・ 最適なレンジの選択ができるようになる)
- ・ 電圧・電流・抵抗の測定ができるようになる)

第8サイクル

デジタルサーキットテスタによる測定 (4時間)

- ・ デジタルサーキットテスタにより抵抗・電圧・電流など正確な測定ができるようになる。

11. 備考・その他

授業の内容についての質問や不明な点がある場合は、放課後必ず質問し、解決すること。その他連絡が必要な場合は、次のアドレスへメールすること。

yanai@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : エンジン実習
2. 教育科目 : 実習 (自動車整備作業)
3. 担当者 : 盛重 航平 (BMW系販売店にて自動車整備に従事)
伊東 努 (日産系販売店にて自動車整備に従事)
柳井 寛翔 (本田系販売店にて自動車整備に従事)
江嶋 涼子(日産系販売店にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 1年 第1・2・4・5・6・7・8・9・10サイクル 計 214 時間
5. 使用テキスト : 「三級自動車ガソリンエンジン」(日本自動車整備振興会連合会)
: 「三級自動車ディーゼルエンジン」(日本自動車整備振興会連合会)
6. 授業の内容と方法
実習教室で、テキスト・プロジェクタ・プリントを使用し授業を進める。大切な所は板書を行うのでノートにとって復習すること。1 サイクル終了ごとに実習試験を行います。
7. 科目の到達目標
三級ガソリン・ディーゼルエンジンの内容とし、動力発生 の原理、仕組みについて実物で確認し分解、組み付け等の手順を守る大切さや、工具や部品の取り扱い方などの基本を習得します。特にピストン位置とバルブタイミングとの関係の理解は重要で国家試験に出題されるだけでなく、エンジンの基礎となるので、習熟を図ります。
8. 成績評価方法
各サイクル後に行う試験(70%)レポート(30%)での評価点60点以上、且つ規定の授業時間以上出席していること。両方の要件を満たした者を履修した者として合格とします。
9. 履修にあたっての準備・事前学習
10分前行動が行えるよう、実習場へは10分前に入室をして下さい。サイクル毎に内容は変わりますが、1年間を授業は総合しています。次のサイクルが始まる前に、必ずノート・プリントの復習を心掛けて下さい。

10. 授業計画

第1サイクル

- ・作業工具の種類と使用方法
- ・測定器の種類と使用方法、部品単体の測定値の読み取り練習
(工具の使用方法、測定器の使用方法、数値の読み取りが行える。)

第2サイクル

- ・5A-FE 型エンジン(直列4気筒)の分解・組み付け
- ・正しい作業手順に沿って分解、組み付け作業
- ・4サイクルガソリンエンジンの構造と作動の理解
(取り外し、組み付けの正しい方法を学び、安全に作業が行える。)

第3サイクル

- ・5A-FE 型(直列4気筒)各部の点検
- ・エンジンを分解(バルブシステムも)バルブ開閉機構部品の測定を行う。
- ・バルブクリアランスとバルブタイミングダイヤグラム
(各部品の役目と測定の必要性の理解が出来る。)

第4サイクル

- ・日常点検(タイヤ、オイル、ワイパーゴム、各種灯火類点検)
- ・実車を用いたオイル交換
- ・オイルの役割、交換の必要性
(初回12か月点検相当の点検ができる)

第5サイクル

- ・工作実習 アーク溶接資格講習
(アーク溶接の資格を取得する)

第6サイクル

- ・1JZ 型(直列6気筒)分解・組み付け
- ・正しい作業手順に沿って分解、組み付け作業
- ・(直列6気筒のバルブタイミングダイヤグラムの問題が解ける)
- ・正しい作業手順に沿って分解、組み付け作業
- ・冷却装置(ウォーターポンプ、ウォータージャケット、ラジエータ、サーモスタット等)
- ※7サイクル目 シリンダゲージの使い方予習

第7サイクル

- ・1JZ 型(直列6気筒)分解・組み付け
- ・潤滑装置(オイルポンプ、オイルギャラリ、オイルポンプクリアランス測定等)
- ・シリンダ内径測定(シリンダゲージを使って測定ができる)

第8サイクル

- ・1C 型(ジーゼルエンジン)分解・組み付け
- ・ジーゼルエンジンの構造と作動(部品名称、作動の仕組みの理解ができる)
- ・燃料装置の噴射ポンプ
- ・分配型・インジェクションポンプ
(噴射ポンプの構造、作動が分かるようになる)

第9サイクル

- ・ホンダ VTEC D15B エンジン分解組付け
- ・可変バルブタイミング機構学習
(可変バルブタイミングの構造と作動、必要性が分かる)
- ・日産 VQ エンジン分解組付け
(V 型エンジンの特徴、作動、構造が分かる)

第10サイクル

- ・電子制御エンジン
- ・燃料噴射システムの構成(燃料系統、吸気系統、制御系統)と制御の理解
- ・センサアクチュエータの信号電圧測定
(電子制御式エンジンの考え方、簡単な故障診断が行える。)

11. 備考・その他

エンジン実習について質問や不明な所がある場合は、事前に日時の相談をしてください。
連絡が必要な場合は下記アドレスへメールすること。

eshiwoman@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : シャン実習
2. 教育科目 : 実習(自動車整備作業)
3. 担当者名 : 伊東 努 (日産系販売店にて自動車整備に従事)
柳井 寛翔 (本田系販売店にて自動車整備に従事)
盛重 航平 (BMW 系販売店にて自動車整備に従事)
江嶋 涼子(日産系販売店にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期 : 一級・二級・車体1年 前期・後期 214時間
5. 使用テキスト : 「三級自動車シャン」(日本自動車整備振興会連合会)
6. 授業の内容と方法

実習教室でテキストと実習車を使用して、自動車のシャン構造の基礎を学んで行く。実習車から部品を脱着し分解・組み付けする場合、手順プリントを作成し生徒に配布し、安全作業を心がけながら授業を進めて行く。構造が複雑なシステムはカメラ・プロジェクト等を使用し理解を更に深めてもらう。

7. 教科の到達目標

学科「三級自動車シャン」で扱う内容について、実物で確認をするとともに分解、組み付け等の手順やコツ、工具や部品の取り扱い方などの基本を体得させる。部品の形状や構成から、実際に作動する時の様子を理解させ、組み付け時に必要な調整や測定を体験させて、各装置の性能維持という概念を理解させる。また、実車を使うことにより学科や実習で習った部品の車両取り付け状態を理解させる。さらに、安全作業の重要性を認識させる。

8. 履修にあたっての準備・事前学習

1. 内容については初心者を対象としてスタートし、安全作業を徹底する。
2. 分解、組み付け時の工具の使い方や作業態度について特に注意すること。
3. 実車を使うので、他の実習や学科の内容と連動して各部品の取り付け場所や状態をよく確認する。

9. 成績評価方法

各サイクル後に行う試験(60%)レポート(30%)出席(10%)での評価点60点以上、
且つ規定の授業時間以上出席していること。

両方の要件を満たした者を履修した者として合格とします。

10. 授業計画

第1サイクル

基礎作業

(ジャッキアップ、ジャッキダウン タイヤ・ホイール脱着方法が言える)

サスペンション

(フロント及びリヤ、ストラット型サスペンションの車両からの取り外し、分解、点検、組み付け、車両取り付け方法が分かる)

第2サイクル

クラッチ

(クラッチの役割 クラッチの原理 コイルs/p式クラッチ、ダイアフラムs/p式クラッチの構造・作動が分かる)

マニュアル式トランスミッション1

(T/Mの位置と役割、T/Mの作動原理、部品名称、動力伝達順序が分かる)

第3サイクル

マニュアル式トランスミッション2

(シンクロナイザ機構・シフトロック機構・二重噛み合い防止装置の作動、減速比の計算が分かる)

ファイナルギヤ&デファレンシャル

(作動原理、部品名称、終減速比の計算 B/Gのプレロード、バックラッシュについて分かる)

第4サイクル

手仕上げ・機械工作実習

(自動車には様々な金属材が使用されているのでその性質を知った上で取り扱うことが必要となる。金属材の加工や仕上げ作業を通じて、技能向上と機械工具類の安全な取り扱い方法を修得し正しい使い方が分かる。)

第 5 サイクル

マニュアル・トランスアクスル

(分解・組み付けをして、構造作動、動力伝達順序が分かる)

(変速比・総減速比計算が分かる)

(オートマチックトランスミッションを分解、組み付けをして、トルクコンバータ、プラネタリギヤ、クラッチ及びブレーキ、オイルポンプの名称、構造、作動、また増減速が分かる)

第 6 サイクル

ステアリング装置

(ラック・ピニオン型ステアリング・ギヤボックスを車両からの取り外し、取り付けをし、分解して部品名称、構造、作動が分かる)

(ステアリング・コラムの車両からを取り外し、取り付けをし、名称、構造が分かる)

第 7 サイクル

ブレーキ装置No.1

(ブレーキの概要、役割、種類、構造、作動が分かる)

(ブレーキマスタ・シリンダを車両からの取り外し、取り付けをし、ブレーキマスタ・シリンダの分解、名称、点検方法、作動が分かる)

(油圧式ディスク・ブレーキ本体の車両からの取り外し、取り付けをし、分解、名称、作動を確認し、点検、組み付け方法が分かる)

(油圧式ドラム・ブレーキ本体の車両からの取り外し、取り付けをし、分解、名称、作動を確認し点検、組み付け方法が分かる)

第 8 サイクル

ブレーキ装置No.2

(各ブレーキ装置の部品の点検、測定、良否の判定が分かる)

(油圧式ディスク・ブレーキの自動調整機構の作動が言える)

(油圧式ドラム・ブレーキのすき間調整方法が分かる)

(パーキング・ブレーキの種類、構造、作動説明が言える)

(パーキング・ブレーキ・レバーの引き代調整が分かる)

(ブレーキ系統のエア抜き作業が分かる)

(真空式一体型制動倍力装置を分解・組み付けして構造、作動、点検方法が分かる)

第9 サイクル

ホイールアライメント

(各ホイールアライメント必要性が分かる)

(測定器具の取り扱い、使用方法が分かる)

(トーインの測定、調整方法が分かる)

(キャンバ、キャスタ、キングピン傾斜角、ターニングラジアスの測定、調整した場合の変化量が分かる)

第10 サイクル

ボール・ナット型ステアリング・ギヤボックス

(分解、組み付けをして、構造、作動、部品名称が分かる)

(プレロード、バックラッシュ調整・測定方法が分かる))

ホイールアライメントNo.2

(ストラット取り付けボルトを交換して強制的にキャンバをプラスキャンバとマイナスキャンバに変化させてみる。キャンバを変化させることで他のどのアライメントに影響が出るのかが分かる)

11.備考・その他

授業の内容について質問や不明な所がある場合は、放課後に必ず質問し解決すること。

その他連絡が必要な場合は、次のアドレスへメールすること。

t-ito@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容：電装実習

2. 教育科目：実習(自動車整備作業)

3. 担当者：柳井 寛翔(ホンダ系自動車会社にて自動車整備に従事)

江嶋 涼子(日産系販売店にて自動車整備に従事)

伊東 努(日産系自動車会社にて自動車整備に従事)

盛重 航平 (BMW系販売店にて自動車整備に従事)

4. 履修学年・学期(時間)：一級、二級、車体 1年 ・ 通期
第1・2・3・4・5・6・7・8・9・10サイクル(214時間)

5. 使用テキスト：三級自動車ガソリン・エンジン(日本自動車整備振興会連合会)
三級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会)
電装品構造(全国自動車大学校・整備専門学校協会)

6. 授業の内容と方法

実習教室において、テキスト、実車教材、プリント、プロジェクタを用いて、授業を進める。座学では、重要なところは板書を行ったり、テキストに線を引いたりするので、しっかり復習すること。また、実作業では、座学で学んだことを生かし、安全第一で作業を進める。サイクル終了後、試験を行います。

7. 科目の到達目標

学科「1年電装品構造」で扱う内容について、実物で確認をすると共に分解、組み付け等の手順やコツ、部品の取り扱い方などの基本を体得する。部品の形状や構成から、構造機能の理解を深める。また、現代の自動車は電動化が進み、配線図の解読、サーキットテスターでの点検を行う機会が非常に多い。こうしたことを数多く行い、電装部品に瞬時に対応できる即戦力となる人材を育てることを目標とする。

8. 成績評価方法

各サイクル後に行う試験(60%)、レポート(30%)、出席(10%)での評価点60点以上、且つ規定の授業時間以上出席していること。両方の要件を満たした者を履修した者として合格とします。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

1. 学科で学習する内容と連動して、実習を行います。学科で学習した内容を復習してから実習に臨んでください。
2. けがをしないように、安全第一の意識をもって実習に臨んでください。

10. 授業計画

第1サイクル 電気工作

- (モーター、発電機作成ができる)
- (モーター、発電機の仕組みを説明できる)
- (アナログサーキットテスター作成ができる)

第2サイクル 基本的な測定実習、始動装置の脱着

- (実験ボードを用いての測定できる)
- (抵抗を直列、並列に接続させての測定ができる)
- (スタータモータの脱着ができる)

第3サイクル 始動装置

- (スタータモータの構造が説明できる)
- (スタータモータの回路の説明ができる)

第4サイクル 半導体 充電装置の分解・組付け

- (ダイオード、ツェナダイオード、トランジスタの特徴を説明できる)
- (オルタネータの分解・組付けができる)

第5サイクル 充電装置、始動装置の点検

- (オルタネータの構造を説明できる)
- (オルタネータの回路の説明ができる)
- (オルタネータの点検ができる)
- (スタータモータの点検ができる)

第6サイクル オシロスコープ、バッテリー、暖房装置

- (オシロスコープで電圧、時間の測定ができる)
- (バッテリーの普通充電、急速充電ができる)
- (暖房装置の構造を説明できる)

第7サイクル 点火装置、ホーン

- (点火装置の構造を説明できる)
- (点火装置の点検ができる)
- (G 信号、Ne 信号の測定ができる)
- (ホーンの回路を説明できる)

第8サイクル デジタルサーキットテスト、ワイパ

(デジタルサーキットテストの作製ができる)

(デジタルサーキットテストを用いた点検ができる)

(ワイパの作動を説明できる)

第9サイクル 灯火装置、電装用品、配線加工

(灯火装置の点検ができる)

(配線図を読み取ることができる)

(配線加工ができる)

第10サイクル 国家試験に出題される装置の点検

(三級自動車整備士レベルの各電気装置の点検ができる)

11. 備考・その他

授業の内容についての質問や不明な点がある場合は、放課後必ず質問し、解決すること。その他連絡が必要な場合は、下記のアドレスへメールすること。

yanai@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : シャシ構造
2. 教育科目 : 専門科目(自動車工学)
3. 担当者 : 田中 亮一 (日産系自動車会社にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級・二級・車体2年 後期 17時間
5. 使用テキスト : 「二級シャシ編」(日本自動車整備振興会連合会)
6. 授業の内容と方法

学科教室において、テキストを使用し授業を進める。テキスト内画像はプロジェクタで投影し、大切な所とテキストは板書を行うので、ノートを取って復習をすること。

7. 科目の到達目標

自動車に求められる基本性能は、「走る」「曲がる」「止まる」の三つの運動性能であるが、安全性、快適性、経済性を追及し、さらに向上し発展をしてきた。それらの装置の構造や性能などを理解し、整備や点検などを行うために必要な知識を学んでいく。

8. 成績評価方法

学期末に行う試験の点数と出席状況を反映させた出席点を合算し評価点する。この評価点が60点以上、且つ規定の授業時間以上出席した者を合格とする。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

1年次のシャシ構造を十分に理解しておくことが必要である。また、授業中に大切なところは抑えていくため、休まず出席することが大切である。

10. 授業計画

- 1) サスペンション構造・機能
(サスペンションの必要性、種類が分かる)
- 2) ボデーの振動、揺動、サスペンションの異音

- (振動・揺動の名称を言える)
- 3) エア・スプリング型サスペンションの構造機能
(エア・スプリングの特徴を言える)
 - 4) レベリング・バルブの構造、作動
(レベリング・バルブの仕組みと作動が分かる)
 - 5) エア・コンプレッサ及びドライヤの構造、作動
(エア・コンプレッサや各バルブの仕組みと作動が分かる)
 - 6) 電子制御式サスペンションの構造、作動
(電子制御式サスペンションの仕組みと特徴が分かる)
 - 7) 電子制御式エア・サスペンションの構造、作動
(エア・スプリング型サスペンションとの違いが分かる)
 - 8) ステアリング装置の旋回性能
(コーナリング・フォースの意味が分かる)
 - 9) ステアリング装置の旋回性能
(スリップ・アングル等の意味が分かる)
 - 10) 油圧式パワーステアリングの構造、作動
(油圧式パワーステアリングの仕組みと特徴が分かる)
 - 11) オイル・ポンプの構造、作動
(オイル・ポンプ、各バルブの作動が分かる)
 - 12) 電動式パワーステアリングの種類
(電動式パワーステアリングの種類を言える)
 - 13) 電動式パワーステアリングの構造、作動
(電動式パワーステアリングの構造、作動を言える)
 - 14) トルクセンサ(スリーブ式・リング式)
(トルクセンサの仕組みと特徴が分かる)
 - 15) トルクセンサ(ホールIC式)
(IC 式トルクセンサの特徴が分かる)
 - 16) ECU による制御。整備
(EPS・ECU の制御が分かる)
 - 17) 後期期末試験

11. 備考・その他

シャシ構造について質問や不明な所がある場合は、事前に日時の相談をしてください。連絡が必要な場合は下記アドレスへメールすること。

r-tanaka@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : 特殊機構
2. 教育科目 : 専門科目(自動車工学)
3. 担当者名 : 野口 義夫 (日産系販売店にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期 : 一級・二級・車体 2年 前・後期 (39 時間)
5. 使用テキスト : 自動車と環境問題
(全国自動車大学校・整備専門学校協会)

6. 授業の内容と方法

学科教室で、テキスト・プロジェクタ,を使用し授業を進める。板書を行い必要なところは動画を使用して理解度を高める。

7. 科目の到達目標

前期・後期末に行う試験の点数が、60 点以上であることを学習到達度の評価とする。併せて、出席が必要とされる規定の授業時間数出席していること。両方の要件を満たした者を履修した者として合格とします。

8. 成績評価方法

学期末に行う試験の点数と授業態度及び出席状況を反映させた平常点を合算し、前期及び後期の評価点を算出する。なお、その平均を通期における評価点とし、この点数が60点以上、且つ規定の授業時間以上出席した者のみを合格とする。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

環境問題はニュースやインターネット等で知識として取り入れることが可能なので、日頃より心がけて興味を持つこと。

10. 授業計画

- 1) 導入 教科書の内容、授業の進め方
(地球環境問題の概要がわかる)
- 2) 地球温暖化
(温暖化のメカニズム・影響・対策がわかる)
- 3) オゾン層の破壊
(オゾン層の破壊のメカニズム・影響・対策がわかる)
- 4) 酸性雨
(酸性雨の発生メカニズム・影響・対策がわかる)
- 5) 自動車に関わる環境問題の現状
(自動車に関わる環境問題がわかる)
排出ガスについて
(我が国における二酸化炭素排出量の推移・取り組みがわかる)
- 6) 排出ガスについて
(排出ガスの規制(複合規制)がわかる)
- 7) 循環型社会について
(循環型社会の法体系がわかる)
- 8) 3R について
(リユース、リデュース、リサイクル、の意味がわかる)
自動車リサイクル法について
(自動車リサイクル法の要点がわかる)
- 9) フロン類の処理
(フロン類処理の流れがわかる)
エアバッグ処理
(エアバッグの処理方法と手順がわかる)
- 10) 解体自動車の処理
(解体自動車の処理の流れと方法がわかる)
(タイヤ・オイル・バッテリーの処理・処分の流れと分かる)
- 11) スマートシティについて
(スマートシティの意味や取り組みがわかる)
- 12) スマートモビリティと自動車の省エネ技術について
(スマートモビリティの取り組みと自動車の省エネ技術がわかる)
- 13) 前期試験

- 14) 新燃費測定モードについて
(新燃費測定モードの概要がわかる)
- 15) 新燃費測定モードについて
(JC08 モードとWLTC モード違いがわかる)
- 16) 環境車両の開発
(環境車両の種類と普及台数がわかる)
- 17) 圧縮天然ガス自動車
- 18) (エネルギーの多様化、CO2 排出低減について説明できる)
- 19) 圧縮天然ガス自動車
- 20) (圧縮天然ガス自動車の構造がわかる)
- 21) ハイブリッド自動車①
(シリーズ・ハイブリッド車の仕組みがわかる)
- 22) ハイブリッド自動車②
(パラレルハイブリッドとパラレルシリーズハイブリッドの仕組みがわかる)
- 23) ハイブリッド自動車③
(ハイブリッド車の特徴がわかる)
- 26) (アトキンソンサイクルがわかる)
- 27) 回生ブレーキ
(回生ブレーキの仕組みがわかる)
- 28) ハイブリット車構成
(ハイブリッド車の構成の概要がわかる)
- 29) HV バッテリー①
(HV バッテリーの構成がわかる)
- 30) HV バッテリー②
(HV バッテリーの種類と構造がわかる)
- 31) プラグインハイブリッドについて①
(プラグインハイブリッドの構成がわかる)
- 32) プラグインハイブリッドについて②
(充電設備を充実させなければならないことがわかる)
- 33) 電気自動車について①
(種類と構成がわかる)
- 34) 電気自動車について②
(構造作動の概要がわかる)
- 35) 燃料電池自動車について①
(燃料電池自動車の構成がわかる)

- 36) 燃料電池自動車について②
(燃料電池がわかる)
- 37) バイオ・エタノール車について
(バイオ・エタノール車の仕組みがわかる)
- 38) クリーン・ディーゼル車について
(クリーン・ディーゼル車の仕組みがわかる)
- 39) 後期期末試験

11. 備考・その他

授業の内容について質問や不明な所がある場合は、放課後に必ず質問し解決すること。その他連絡が必要な場合は、次のアドレスへメールすること。

noguchi@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容： 自動車の数学
2. 教育科目： 専門科目(自動車工学)
3. 担当者： 柳井 寛翔(ホンダ系自動車会社にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間)： 一級、二級、車体2年・通期(39時間)
5. 使用テキスト： 自動車整備士 計算の基礎と問題(自動車公論社)
単元別練習問題(本校作成プリント)

6. 授業の内容と方法

学科教室において、国家試験に基づくオリジナル問題を使用し授業を進める。問題は時間中に1回解いて、復習としてもう一度同類の別問題を解く。解き方・考え方を板書するので、ノートを取る。なお、適宜小テストを行い、理解力を確認する。

7. 科目の到達目標

国家二級自動車整備士試験に出題される計算問題に対応できるようになる。国家試験問題に出題傾向はあるが、それに幅を持たせたオリジナル問題も解けるようになる。

8. 成績評価方法

学期末に行う試験の点数と授業態度及び出席状況を反映させた平常点を合算し、前期及び後期の評価点を算出する。なお、その平均を通期における評価点とし、この点数が60点以上、且つ規定の授業時間数以上出席した者のみを合格とする。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

中学・高校時の数学の復習をしておくこと。また、国家試験において電卓の使用が認められているので、授業中にも使用しなれておくこと。

10. 授業計画

1) オームの法則

(オームの法則を利用して、電圧、電流、抵抗を求めることができる)

2) 直列回路

(直列回路の合成抵抗と、電圧降下量を求めることができる)

3) 並列回路

(並列回路の合成抵抗と、各抵抗に加わる電圧を求めることができる)

4) 1抵抗に掛かる電圧

(それぞれの抵抗に掛かる電圧を求めることができる)

5) 複雑な回路の計算

(国家試験に出題された問題を解くことができる)

6) 電力 電流増幅率

(電力と電流増幅率を計算で求めることができる)

7) プラネタリギヤの計算

(プラネタリギヤの歯数から、変速比、回転方向を求めることができる)

8) 自動車の荷重

(車両重量、車両総重量を説明できる)

9) 力のつり合い モーメント

(てこの力のつり合いから、モーメントを求めることができる)

10) 自動車の重心、重心から車軸までの距離

(重心に掛かる荷重と、重心から車軸までの距離を求めることができる)

11) 荷重の配分1

(車軸に掛かる荷重を比により求めることができる)

12) 荷重の配分2 荷台オフセット

(荷物積載時の車軸に掛かる荷重を求めることができる)

13) 前期試験

14) 車軸に掛かる荷重1

(諸元表から、車軸に掛かる荷重を求めることができる)

15) 車軸に掛かる荷重2

(モーメントの考え方を利用し、車軸に掛かる荷重を求めることができる)

16) レッカー車の軸重計算

(レッカー車の各部分に掛かる荷重を求めることができる)

17) 加速度

(加速度を求めることができる)

- 18) 仕事率
(仕事率を求めることができる)
- 19) 自動車の駆動輪の駆動力
(諸元表から、自動車の駆動輪の駆動力を求めることができる)
- 20) 自動車の駆動輪の回転速度
(諸元表から、自動車の駆動輪の回転速度を求めることができる)
- 21) 自動車の速度
(諸元表から、自動車の速度を求めることができる)
- 22) 自動車の変速位置
(諸元表から、第何速状態か求めることができる)
- 23) 自動車の走行抵抗、出力
(自動車の走行抵抗、出力を求めることができる)
- 24) 自動車の登坂能力
(勾配登坂時の水平方向への移動距離を求めることができる)
- 25) トルクコンバータ
(トルクコンバータの速度比、トルク比、伝達効率の計算ができる)
- 26) 圧力
(力と面積の関係から、圧力を求めることができる)
- 27) 排気量、圧縮比
(諸元表から、自動車の排気量、圧縮比を求めることができる)
- 28) 平均ピストン速度
(平均ピストン速度を求めることができる)
- 29) 金属の熱膨張率
(金属の熱膨張率の計算ができる)
- 30) 燃料消費率
(燃料消費率の単位の意味を理解できる)
- 31) 転がり抵抗
(転がり抵抗とタイヤの関係を理解し、転がり抵抗の計算ができる)
- 32) 空気抵抗
(空気抵抗と速度・投影面積の関係が分かる)
- 33) すべり比
(制動時と非制動時のタイヤの1回転の距離を理解できる)
- 34) 登坂抵抗
(勾配能力について理解できる)
- 35) 走行性能曲線図
(走行性能曲線図から、自動車の能力を読み取ることができる)

36) エンジン性能曲線図

(エンジン性能曲線図から、自動車のエンジン性能を読み取ることができる)

37) 国家試験出題問題

(国家試験に出題された問題を解くことができる)

38) 自動車数学総合問題

(過去に学んだ内容の問題を、解くことができる)

39) 後期試験

11. 備考・その他

授業の内容についての質問や不明な点がある場合は、放課後必ず質問し、解決すること。その他連絡が必要な場合は、下記のアドレスへメールすること。

yanai@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容： 自動車材料
2. 教育科目： 専門科目（自動車工学）
3. 担当者名： 野口義夫（日産系販売店にて自動車整備に従事）
4. 履修学年・学期(時間)： 一級・二級・車体 2年 前期（23時間）
5. 使用テキスト：自動車材料(全国自動車整備専門学校協会 編)

6. 授業の内容と方法

学科教室で、テキスト・プロジェクタ,を使用し授業を進める。板書を行い必要なところは動画使用して理解度を高める。

7. 科目の到達目標

自動車に使用される金属、非金属材料の性質、加工法、検査法等の整備技術に必要な幅広い基礎知識を身につける。二級自動車整備士の国家試験問題出題傾向なども考慮して練習問題等でさらに理解を深める。

8. 成績評価方法

前期末に行う試験の点数が、60点以上であることを学習到達度の評価とする。併せて、出席が必要とされる規定の授業時間数出席していること。

両方の要件を満たした者を履修した者として合格とします。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

前期のみの授業時間なので、教科書の全てに亘って授業ができないためできる限り予習を行い教科書に目を通しておくこと。

10. 授業計画

- 1) 自動車の材料の構成と動向
(自動車材料の構成概略を理解できる。)
- 2) 自動車に使われる材質
(機械的性質と物理・化学的性質等を理解できる。)
- 3) 金属材料の性質
(金属の特徴を理解できる。)
- 4) 金属の通性、結晶構造
(鋼板の製造工程を理解できる。)
- 5) 弾性変形、塑性変形、加工硬化
(焼きなまし、ならし、入れ、戻しを理解できる。)
- 6) 鉄鋼材料
(浸炭法、窒化法、ショットピーニングが理解できる。)
- 7) 熱処理、表面硬化
(鋼板の種類その製造方法を理解できる。)
- 8) 非鉄金属材料
(非金属材料の概要を理解できる。)
- 9) 特殊鋼、鋼板、鋳鉄
(可鍛鋳鉄、特殊鋳鉄を理解できる。)
- 10) アルミニウムとその合金、マグネシウムとその合金
(アルミニウムとその合金の特徴と使用例を理解できる。)
- 11) 焼結合金
(焼結合金の特徴を理解できる。)
- 12) 銅とその合金、亜鉛、鉛、すずとその合金、チタンとその合金
(ケルメット、アルミニウム、トリメタルの特徴を理解できる。)
- 13) 非金属材料
(非金属材料の特徴を理解できる。)
- 14) プラスチック
(プラスチック種類について理解できる。)
- 15) 塗料
(顔料と染色の違いを理解できる。)
- 16) ゴム
(天然ゴムと合成ゴムの特徴を理解できる。)

- 17) ガラス
(強化ガラスと合わせガラスの違いを理解できる。)
(導電ガラスと光ファイバーケーブルについて理解できる。)
- 18) セラミックス
(製造と加工について理解できる。)
(自動車に使用されている部品名を知る。)
- 19) 摩擦材
(摩擦の性質と摩擦の重要性を知る。)
- 20) 合成繊維
(シートベルトの繊維及び、重要性が分かる。)
- 21)～(22) 複合材料について
(複合材料の構成を知る。)
(複合材料の種類と性質を理解できる。)
(高圧水素タンクの材質を理解できる。)
- 23) 前期末試験

11. 備考・その他

授業の内容について質問や不明な点がある場合は、放課後に必ず質問し解決すること。
その他連絡が必要な場合は、次のアドレスへメールすること。

noguchi@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : 製 図
2. 教育科目 : 専門科目 (自動車工学)
3. 担当者名 : 伊東 努 (日産系販売店にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級・二級・車体2年・前期 (23時間)
5. 使用テキスト : 「JISにもとづく 標準製図法」(理工学社 編)
6. 授業の内容と方法

学科教室で、テキスト使用し授業を進める。製図には色々な決まり事があり、図解が必要となるので、プロジェクタを使用して理解を深める。また、プロジェクタで説明できない部分は、板書し生徒にもノートに書かせながら解説し、授業を進める。プリントを配布し、簡単な作図もしてもらう。

7. 教科の達成目標

製品を作る為には世界的な規則がある。誰が見てもそれがわかるように描けることが大切である。近年はコンピュータによるCAD製図の発展が目覚ましだが、基礎知識がなければ能力を発揮できないので基本的な学習が大切と考えられる。その基本を身に付け、応用できるようになることを目標とする。

8. 成績評価方法

前期末に行う試験の点数が、60点以上であることを学習到達度の評価とする。併せて、出席が必要とされる規定の授業時間数出席していること。両方の要件を満たした者を履修した者として合格とする。

8. 履修にあたっての準備・事前学習

作図を行う上で製図器具、用具をどのように用いるか、また、線や文字の用法を良く理解し、正しい図法を用いて作図できるかを課題を与えて指導する。製図用具は、毎回授業で使用するので持参すること。

10. 授業計画

- (1) 製図について・1
(製図の意義と重要性を理解し言える)
- (2) 製図について・2
(製作図を見て制作する商品のどの部位の図を表しているか言える)
- (3) 製図について・3
(製図規格がどのように分類されているのかを言える)
- (4) 製図器材とその使い方
(製図機材の種類を理解し、用紙や鉛筆など決まり事が言える)
- (5) 図面の構成について・1
(尺度の倍尺、縮尺、現尺の意味や文字を書く場合の注意事項を言える)
- (6)～(8) 図面の構成について・2
(線の種類と太さ、線の種類、太さによる用途別の名称を言える)
- (9)～(10) 図形の表し方・1
(製作図を描く場合、投影法の種類、どの様な特徴があるかを理解し言える)
- (11)～(12) 図形の表し方・2
(品物の隠れて見えない部分の形を表す断面図の種類、特徴を言える)
- (13) 前期末試験
- (14)～(16) 平面幾何画法
(平面幾何画法により平面図形を正しく描ける・・・対策授業分)
- (17)～(19) 製図に用いる記号
(製図に用いる記号(寸法補助記号、表面性状の図示記号)が言える
・・・対策授業分)
- (20)～(21) 投影法の第一角法と第三角法
(投影法の第一角法と第三角法で図面を描く練習課題を行うことでさらに
投影法の理解力を深め正しく描ける・・・対策授業分)
- (22)～(23) ねじ製図、歯車製図
(ねじ製図、歯車製図、転がり軸受製図、ばね製図について理解し特徴
が言える・・・対策授業分)

11. 備考・その他

授業の内容について質問や不明な所がある場合は、放課後に必ず質問し解決すること。その他連絡が必要な場合は、次のアドレスへメールすること。

t-ito@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : ガソリン・エンジン整備
2. 教育科目 : 専門科目(自動車工学)
3. 担当者 : 上田 雄一 (トヨタ系販売店にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級、二級、車体 2年 ・前・後期 (45時間)
5. 使用テキスト : 「二級ガソリン自動車」(日本自動車整備振興会連合会 編)
6. 授業の内容と方法

学科教室で、テキスト・プロジェクタを使用し授業を進める。大切な所は板書を行うのでノートにとって復習すること。セクション終了時には練習問題で理解力を確認する。

7. 科目の到達目標

近年では、環境問題が大きく取り上げられ、大気汚染の原因となる有害排出ガスはもとより、地球温暖化の一因とされるCO₂の低減及び燃費の低減が強く求められています。環境に適したハイブリット自動車や筒内噴射式のエンジンを理解するために、この科目でよりエンジンの構造と機構に理解を深めると共に、電子制御装置の理解を深め、点検や整備などを行うために、必要な知識を学んでいきます。

8. 成績評価方法

前期・後期末に行う試験の点数が、60点以上であることを学習到達度の評価とする。合わせて、出席が必要とされる規定の授業時間数を出席していること。両方の要件を満たした者を履修した者をして合格とします。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

1年次のエンジン構造を十分に理解しておくことが必要である。また、授業中に大切なところは抑えていくため、休まず出席することが大切である。

10. 授業計画

- 1) 導入
授業、時間数説明、1年ガソリン構造復習
- 2) 総論(ガソリン・エンジンの歴史、将来)
(ガソリン・エンジンのこれからの進む方向性が言える。)
- 3) ガソリン・エンジンの燃焼方式
(燃焼方式による圧縮比と膨張比の関係性が言える。)
- 4) バルブ・タイミング(4 サイクルエンジン)
(バルブタイミングダイヤグラムが書けるようになる。)
- 5) バルブ・タイミング(4 サイクルエンジン、6気筒エンジン)
(バルブタイミングダイヤグラムを利用し、国家試験過去問題が解ける。)
- 6) 練習問題(直列4気筒エンジン、6気筒エンジンのバルブ・タイミング)
(様々な出題形式の過去問題を解くことが出来る。)
- 7) 性能(熱効率、エンジンの損失、体積効率と充填効率)
(エンジンが失う損失を学ぶ。体積効率と充填効率の違いが判断出来る。)
- 8) 性能(エンジンの出力試験)
(出力試験方法を学び、違いが言える。)
- 9) ノッキング(ノッキングの種類、原因)
(ノッキングが発生する原因を学び、故障診断に活かすことが出来る。)
- 10) 排出ガス(有害排出ガスの発生過程、対応策)
(有害排出ガスが発生する原因を言うことができ、そのための対応策が判断出来る。)
- 11) 練習問題(ノッキング、有害排出ガス)
(国家試験、過去問題を解くことが出来る。)
- 12) エンジンの構造(作動方式)
(スキップシユエリアの利点が言える。)
- 13) エンジンの構造(燃焼室シリンダ・ヘッド、シリンダ・ブロック構造)
(燃焼室形状がもたらす、有害排出ガス対策を言うことが出来る。)
- 14) エンジンの構造(ピストン・リングの種類、異常現象、測定要領)
(ピストン・リングの異常現象3つの説明が出来る。)
- 15) エンジンの構造(コンロッド、コンロッド・ベアリングの種類、要素、測定方法)
(コンロッド・ベアリングの性質や要素3つの説明が出来る。)
- 16) エンジンの構造(バランス機構)
(バランス機構で軽減する慣性力の説明が出来る。)
- 17) エンジンの構造(一次慣性力と二次慣性力)
(一次慣性力と二次慣性力を低減する方法の説明が出来る。)

- 18) エンジンの構造(バルブ開閉機構)
(バルブスプリングに起こる異常現象と対策が言える。)
- 19) エンジンの構造(バルブクリアランス自動調整機構、自動調整式テンション)
(バルブクリアランス自動調整機構を用いる利点が言える。)
- 20) エンジンの構造(可変バルブ・タイミング可変バルブ・リフト機構)
(可変バルブ機構による体積効率の変化を説明出来る。)
- 21) 練習問題(エンジン構造についての練習問題)
- 22) エンジン本体 冷却装置(電動ファン、点検と整備)
(エアコンの作動状態、冷却水温変化による電動ファン回転速度変化が言える。)
- 23) エンジン本体 潤滑装置(オイルポンプ、潤滑経路)
(潤滑経路の順番が言え、潤滑するのに必要な温度を言える。)
- 24) エンジン本体 燃料装置(フューエルポンプ、プレッシャー・レギュレータ)
(フューエルポンプ回路を書くことが出来る。)
- 25) エンジン本体 燃料装置(電子制御式 LPG 燃料装置)
(LPG 燃料装置特有の部品についての特徴が言える。)
- 26) エンジン本体 吸・排気装置 過給機(ターボチャージャ、ウエストゲートバルブ)
(ターボチャージャの特徴が言える。)
- 27) エンジン本体、吸・排気装置(スーパーチャージャ、インタークーラ)
(スーパーチャージャの特徴が言え、インタークーラーが高める効率が言える。)
- 28) 練習問題(エンジン本体について練習問題)
- 29) 前期末試験
- 30) 吸・排気装置(可変吸気装置)
(可変吸気装置の吸気管形状の利点が言える。)
- 31) 電子制御装置(電子制御装置の概要、構造・機能)
(柔軟な考えが出来るように、電子制御装置の基礎を養う。)
- 32) 電子制御装置(バキューム・センサの構造・機能、回路)
(ピエゾ抵抗効果が説明でき、センサの出力特性が言える。)
- 33) 電子制御装置(エア・フロー・メータの構造、機能)
(発熱抵抗体の放熱量の変化と、抵抗値の変化が言える。)
- 34) 電子制御装置(スロットル・ポジション・センサ、アクセル・ポジション・センサ)
(ホール素子の説明ができ、センサの出力特性が言える。)
- 35) 電子制御装置(クランク各センサ、カム角センサ、 O_2 センサの構造、機能)
(ジルコニア素子、ピックアップコイル式、磁気抵抗素子式が説明出来る)
- 36) 電子制御装置(水温センサ、吸気温センサの構造、機能)
(負特性サーミスタの抵抗値変化の説明が出来る。)
- 37) 電子制御装置(その他のセンサ、信号)

- (ノッキングを検知した後の点火時期制御が説明が出来る。
- 38) 電子制御装置(燃料噴射装置の概要、電子制御式インジェクタ)
(噴射量の制御方法が言える。)
 - 39) 電子制御装置(燃料噴射装置の制御)
(電圧補正時間の必要性が説明出来る。)
 - 40) 電子制御装置(基本噴射、噴射補正、燃料噴射方式、フューエル・カット)
(同期噴射、非同期噴射の違いが説明出来る。)
 - 41) 電子制御装置(アイドル回転速度制御)
(ISO 制御、始動時制御と暖気時制御の説明が出来る。)
 - 42) 電子制御装置(点火制御装置の概要、独立点火方式イグナイタ回路)
(過電流保護回路、一次電流の説明が出来る。)
 - 43) 電子制御装置(点火時期制御、通電時間制御、総合制御)
(固定進角、基本進角制御の説明が出来る。)
 - 44) 電子制御装置(電子スロットル装置、スロットル制御)
(開度制御、4つが説明出来る。)
 - 45) 後期末試験

11. 備考・その他

ガソリン・エンジン整備について質問や不明な所がある場合は、事前に日時の相談をして下さい。連絡が必要な場合は下記アドレスへメールすること。

ueda@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : ジーゼルエンジン整備
2. 教育科目 : 専門科目 (自動車整備)
3. 担当者 : 川上 良雄 (トヨタ系販売店にて自動車整備・钣金・塗装に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級・二級・車体 2年 通期(33 時間)
5. 使用テキスト : 「二級ジーゼル自動車」 日本自動車整備振興会連合会
国土交通省自動車交通局監修 自動車整備技術
6. 授業の内容と方法

学科教室で、テキスト・プロジェクタを使用し授業を進める。大切な所は板書を行うのでノートにとって復習すること。セクション終了時には練習問題で理解力を確認する。

7. 科目の到達目標

ガソリンエンジンとジーゼルエンジンの違いをしっかりと把握させる
ガソリンエンジンとジーゼルエンジンの燃焼方式の違いや、構造などを
しっかりと把握させると共に、ジーゼルエンジンの特徴を理解させる。

8. 成績評価方法

前期・後期末に行う試験の点数が、60 点以上であることを学習到達度の
評価とする。併せて、出席が必要とされる規定の授業時間数出席していること。
両方の要件を満たした者を履修した者として合格とします。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

講義だけでは十分な理解は難しいので、復習をしっかりとって臨むこと。1年次に履修
したインジェクションポンプ等の内容を十分に把握した上で臨む事。

10. 授業計画

- 1) 1年次の復習
(バルブ・タイミング・ダイヤグラムの問題が分かる)
- 2) ジーゼルエンジンの燃焼方式及びバルブタイミングについての学習
(ジーゼル・エンジンはどのようにして燃料に火をつけているかが分かる)
- 3) ジーゼルエンジンの性能評価の学習
(エンジン性能を評価する方法には様々な面から見た評価があることが分かる)
- 4) エンジンの諸損失についての学習
(エンジンには作動しているときにいくらかの損失が発生していることが分かる)
- 5) ジーゼルエンジンの燃焼サイクルを学習
(ジーゼル・エンジンの作動における作動工程で何が起きているかが分かる)
- 6) ジーゼル・エンジンから排出されるガスについての学習
(ジーゼル・エンジンから排出されるガスにはどのような成分が含まれているかが分かる)
- 7) ジーゼル・エンジン本体の仕組みを学習
(燃焼室の形状の種類にはどのようなものがあるかが分かる)
- 8)～9) シリンダおよびシリンダブロックの構造と機能についての学習
(大型車と小型車によるシリンダライナーの構造が分かる)
- 10)～11) ピストン及びピストンリングについての学習
(ジーゼル用ピストンにはガソリン用と異なった形状があり、なぜそのような形状なのかが分かる)
- 12) コンロッド及び、コンロッドベアリングについての学習
(コンロッドに使用されているベアリングにはどのような材質があり、どのような性質が求められるかが分かる)
- 13) クランクシャフト及びジャーナルベアリングについての学習
(クランクシャフトはどのような材質で耐久性を持たせるためにどのような工夫が施されているかが分かる)
- 14) バルブ機構についての学習
(バルブには高速回転時でも確実に開閉できることや、開閉時の音を減らすための工夫があることが分かる)
- 15) 潤滑装置・冷却装置についての学習
(ジーゼルのエンジンオイルのろ過方式にはどのようなものがあり、どのようなエンジンに使い分けされているかが分かる)
- 16) 前期末試験

- 17) 燃料装置についての学習
(ジーゼルエンジンの燃料装置は環境に配慮する形で大きく改良されたものが使われており、そうになっていった背景が分かる)
- 18)～19) コモンレール式高圧燃料噴射装置における構造と機能の学習
(高圧燃料噴射装置にはどのような種類があり、それらの構造と機能が分かる)
- 20)～21) コモンレールについての学習
(高圧燃料噴射に対する圧力の制御はどのようにして行われているかが分かる)
- 22) インジェクタについての学習
(ジーゼル用のインジェクターにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるかが分かる)
- 23)～24) 各種センサについての学習
(センサの種類にはどのようなものがあり、それぞれの役目と制御が分かる)
- 25) ECU についての学習
(センサーからの情報でECUはどのような処理を行っているかが分かる)
- 26) ジーゼルエンジンの整備についての学習
(ジーゼルエンジンの電子制御化によってエンジン部品の取り扱い時の注意事項が分かる)
- 27)～28) ユニットインジェクタ式高圧燃料噴射装置についての学習
(ユニットインジェクタ式高圧燃料噴射装置の構造と作動が分かる)
- 29) 過給装置についての学習
(過給機の種類にはどのようなものがあるかが分かる)
- 30) 過給機用インタークーラーについての学習
(インタークーラーとはどのようなもので何故必要なかが分かる)
- 31) 排気ガス後処理装置とは何かを学習
(DPF装置と尿素SCRシステムとは何かが分かる)
- 32) ジーゼルエンジンに使われる余熱装置についての学習
(ジーゼルエンジンには何故、余熱装置が必要かが分かる)
- 33) 後期末試験

11. 備考・その他

質問や不明な所がある場合は、事前に日時の相談をしてください。
連絡が必要な場合は下記アドレスへメールすること。
y-kawa@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : シャシ整備
2. 教育科目 : 専門科目(自動車工学)
3. 担当者 : 田中 亮一 (日産系自動車会社にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級、二級、車体 2年 前・後期 49H
5. 使用テキスト : 「二級シャシ編」(日本自動車整備振興会連合会)
6. 授業の内容と方法

自動車に求められる基本性能は、「走る」「曲がる」「止まる」の三つの運動性能であるが、安全性、快適性、経済性を追及し、さらに向上し発展をしてきた。それらの装置の構造や性能などを理解し、整備や点検などを行うために必要な知識を学んでいく。

7. 科目の到達目標

自動車整備士の国家資格取得をめざす専門学校生として必要な知識を身に付けさせる。自動車の構造的な面だけでなく、法的な面からもしっかりと理解する。

8. 成績評価方法

学期末に行う試験の点数と出席状況を反映させた出席点を合算し評価点とする。この評価点が60点以上、且つ規定の授業時間以上出席した者を合格とする。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

1年次のシャシ構造を十分に理解しておくことが必要である。また、授業中に大切なところは抑えていくため、休まず出席することが大切である。

10. 授業計画

- 1) 導入 総論
(走行抵抗・駆動力の定義が分かる)
- 2) ホイール・アライメントの概要

- (ホイール・アライメントの必要性が分かる)
- 3) キャンバ
(キャンバの必要性と役割が分かる)
 - 4) キャスタ
(キャスタの必要性と役割が分かる)
 - 5) キャスタ効果
(キャスタを付けることで発生するメリットが分かる)
 - 6) キングピン傾角
(キングピン傾角の必要性と役割が分かる)
 - 7) トー
(トーの必要性と役割が分かる)
 - 8) スラスト・ライン
(スラスト・ラインとスラスト角の意味が分かる)
 - 9) クラッチに要求される性能
(伝達トルク容量の意味が分かる)
 - 10) オートマチックトランスミッション概要、構造・機能制御方式
(プラネタリギヤ式と CVT の特徴が分かる)
 - 11) トルクコンバータの概要
(トルクコンバータの構成部品、働きが分かる)
 - 12) フルードカップリングの働き
(トルク伝達方法が分かる)
 - 13) トルクコンバータの働き
(トルク増大作用が分かる)
 - 14) トルクコンバータの性能
(トルクコンバータ性能曲線図からの読み取りができる)
 - 15) 変速機(プラネタリギヤ式)の構造、作動
(プラネタリ・ギヤ・ユニットの名称が言える)
 - 16) 各レンジの作動(動力伝達)
(各ギヤ段のクラッチ・ブレーキの状態を言える)
 - 17) 制御装置、変速点
(自動変速線図を読み取れる)
 - 18) ロックアップ機構
(トルクコンバータの入出力、ロックアップ時のつながりを言える)
 - 19) 安全装置の概要
(安全装置の定義が分かる)

- 20) CVT の変速機
(CVT を構成する部品名称を言える)
- 21) CVT の動力伝達
(変速作動を言える)
- 22) 差動制限型ディファレンシャルの構造、作動
(差動制限型ディファレンシャルの必要性が分かる)
- 23) トルク感应式
(ヘリカル・ギヤ式の作動が分かる)
- 24) 回転速度差感应式
(粘性式の作動が分かる)
- 25) 前期期末試験

- 26) ホイール構造、機能
(ホイールの種類、特性が分かる)
- 27) 軽合金ホイールの種類と特徴
(軽合金ホイールの特徴が分かる)
- 28) タイヤの機能(たわみ、ころがり抵抗)
(タイヤに求められる特性が分かる)
- 29) タイヤの機能(発熱、振動、音)
(タイヤが回転することで生じる不具合とその対策が分かる)
- 30) 整備(タイヤの異常摩耗)
(タイヤの点検で注目箇所、異常現象が発生する要因が分かる)
- 31) 大型トラック・バスの車輪の取り扱い
(大型車タイヤの取り扱いが分かる)
- 32) ブレーキの性能、ブレーキの不具合現象
(ブレーキの用語。不具合現象の定義が分かる)
- 33) エア・油圧ブレーキの概要、ブレーキ・バルブの構造、作動
(ブレーキ・バルブの仕組みが分かる)
- 34) 制動倍力装置の構造、作動
(制動倍力装置の仕組みが分かる)
- 35) フル・エアブレーキ式の概要
(リレーバルブの仕組みが分かる)
- 36) ブレーキ・チャンバ、スラック・アジャスタの作動
(ブレーキ・チャンバ、スラック・アジャスタの仕組みが分かる)
- 37) アンチロック・ブレーキ・システムの概要
(ABS の必要性が分かる)

- 38) 制動特性及びコーナリング特性、制御サイクル
(特性曲線、制御サイクルが分かる)
- 39) 車輪速センサの構造、機能
(車輪速センサの仕組みが分かる)
- 40) ABS の作動
(増圧・減圧・保持の作動状態が分かる)
- 41) トラクション・コントロールの概要
(TCS の必要性が分かる)
- 42) トラクション・コントロールの制御サイクル、作動
(制御サイクルが分かる)
- 43) 電子制御ブレーキシステム、補助ブレーキ
(EBS 構成図が分かる)
- 44) エキゾースト・ブレーキの概要、作動
(エキゾースト・ブレーキの必要性が分かる)
- 45) エディ・カレント・リターダ、永久磁石式、流体リターダ、エンジンリターダリターダの構造・作動
(リターダの仕組みと特徴が分かる)
- 46) ブレーキの整備
(ブレーキ・バルブの遊び調整、ABS 特有の故障現象が分かる)
- 47) フレーム及びボデー、衝突吸収構造・整備
(フレームの種類、構造、乗用車用ボデー名称が分かる)
- 48) 外部診断器と多重通信
(外部診断器の使い方、CAN 通信の仕組みが分かる)
- 49) 後期期末試験

11. 備考・その他

シャシ整備について質問や不明な所がある場合は、事前に日時の相談を
してください。連絡が必要な場合は下記アドレスへメールすること。

r-tanaka@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : 二輪整備
2. 教育科目 : 専門科目(自動車工学)
3. 担当者 : 上田 雄一 (トヨタ系販売店にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級、二級、車体 2年 ・前期 (18 時間)
5. 使用テキスト : 「二級二輪自動車」(日本自動車整備振興会連合会 編)

6. 授業の内容と方法

学科教室で、テキスト・プロジェクタを使用し授業を進める。大切な所は板書を行うのでノートにとって復習すること。セクション終了時には練習問題で理解力を確認する。

7. 科目の到達目標

現在の自動車の最新技術は、快適性、安全性を追求すると同時に低公害車へと、進歩するなかで電子制御を使用している。これからの整備技術の向上を図るためには、電子制御のシステムの理解が必要となってくる。この電子制御に使用されている各センサ、アクチュエータの信号及び電圧形態等を理解し、故障診断に必要な知識を学んでいく。

8. 成績評価方法

前期末に行う試験の点数が、60点以上であることを学習到達度の評価とする。
合わせて、出席が必要とされる規定の授業時間数を出席していること。
両方の要件を満たした者を履修した者をして合格とします。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

前期のみの授業時間なので、教科書の全てに亘って授業が出来ないため、出来る限り予習を行い教科書に目を通しておくこと。

10. 授業計画

1) 導入

授業、時間数説明、二輪とは

2) ノッキングの原因、排出ガス

(ノッキングを熟知し、防止策が言える。)

- 3) エンジン本体①
(コンロッド・ベアリング、2種類の特徴が言える。)
- 4) エンジン本体②
(プレーンベアリングの3つの要素が説明出来る。)
- 5) エンジン本体③
(バルブスプリングに起こる異常現象、対策方法の説明が出来る。)
- 6) エンジン本体④
(二輪車のバラサ機構の配置、作動の説明が出来る。)
- 7) エンジン本体⑤
(冷却装置、電動ファンとサーモスタットの作動説明が行える。)
- 8) エンジン本体⑥
(吸排気装置、マフラと触媒装置、転化率について説明が行える。)
- 9) 動力伝達装置①
(自動遠心クラッチの作動が説明出来る。)
- 10) 動力伝達装置②
(クラッチ・イン回転速度、クラッチ・ストール回転速度の説明が出来る。)
- 11) 動力伝達装置③
(シャフト駆動装置の点検が行える。)
- 12) サスペンション
(車両振動の種類、現象と名称が言える。)
- 13) アクスル及びサスペンション①
(リンク式リヤ・サスペンションのばね特性とレバー比の関係性が説明出来る。)
- 14) アクスル及びサスペンション②
(リヤ・サスペンションの減衰力特性[単動型、複動型]の違いが説明が出来る。)
- 15) 点火装置
(マイコン式イグナイタ、構成部品について説明が出来る。)
- 16) 国家試験対策練習問題 1
- 17) 国家試験対策練習問題 2
- 18) 前期末試験

備考・その他

二輪整備について質問や不明な所がある場合は、事前に日時の相談をして下さい。連絡が必要な場合は下記アドレスへメールすること。
ueda@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : 電装整備
2. 教育科目 : 専門科目 (自動車整備)
3. 担当者 : 田所 文男 (トヨタ系自動車販売店にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級・二級・車体 2年 通期 (46時間)
5. 使用テキスト : 「二級ガソリン自動車 エンジン編」 (日本自動車整備振興会連合会)
: 「二級ガソリン・ディーゼル自動車整備士 シャシ編」
(日本自動車整備振興会連合会)
6. 授業の内容と方法

現代自動車の電装品は電子制御化が進み高性能化している。電気の基本である電圧降下からマイクロコンピュータでの制御まで、幅広く理解することを目指し、故障探求に役立てる。

7. 科目の到達目標

エンジン電装からシャシ電装まで、幅広く理解しマイクロコンピュータ制御も説明できることを目標とする。

8. 成績評価方法

前・後期末に行う試験の点数が、60点以上であることを学習到達度の評価とする。併せて、出席が必要とされる規定の授業時間数出席していること。両方の要件を満たした者を履修した者として合格とします。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

1年次の内容をよく理解しておくこと、想像力を高め考えることに重点を置くこと、電気工学をよく理解し電圧の変化と回路図を読めるようになること。

10. 授業計画

- 1) 概要
(最近の車両に使用されている自動車電装品の必要な在り方が分かる)
- 2) スタータ出力特性図
(エンジンを始動するにあたり、始動装置の必要な回転速度を考え理解できる)
- 3) スタータの特性
(直流モータの特性とバッテリーとの関連を考え、始動性と関連づけることができる)
- 4) スタータの出力特性
(スタータとしての必要なトルクと回転速度を考え理解することができる)
- 5) モータの出力特性
(モータ内の逆起電力と電流について考え理解することができる)
- 6) バッテリーの出力電流と出力電圧
(バッテリーの内部抵抗について考え理解できる)
- 7) モータの効率 吸引・保持試験
(入力電力と出力との関係にて効率を考え、始動装置のまとめができる)
- 8) 点火装置 相互誘導作用
(高電圧を発生させる為にはどのようなことを行っているのか考え理解できる)
- 9) 点火時期制御の必要性
(燃料を効率よく出力に変えるにはどの位置で点火するべきか理解できる)
- 10) ダイレクト・イグニション
(時代とともに点火装置の変遷を見、理解できる)
- 11) イグニション・コイル
(磁気抵抗を考え理解できる)
- 12) スパーク・プラグ
(スパーク・プラグの構造と役割を理解できる)
- 13) スパーク・プラグ 消炎作用と電極形状
(消炎作用と電極形状との関係を考え理解できる)
- 14) スパーク・プラグの形状 (着火性の向上)
(消炎作用と電極形状との関係を考え理解できる)
- 15) 充電装置
(発電の原理を考え理解できる)
- 16) 整流と中性点
(交流を直流への変換方法を理解できる)
- 17) 中性点ダイオード付きオルタネータ
(中性点における電圧を考え理解できる)

- 18) ボルテージ・レギュレータ概要
(ボルテージ・レギュレータとインジケータの必要性を考え理解できる)
- 19) ボルテージ・レギュレータ作動
(ボルテージ・レギュレータの作動を理解できる)
- 20) ボルテージ・レギュレータのフェイル・セーフ
(発電機能に異常が生じた際に、インジケータでの表示と自己修正機能を知ることができる)
- 21) 充電制御機能
(発電負荷を少なくするためにはどのような運転状態で、発電するべきかを考え理解できる)
- 22) 充電装置まとめ
(性能試験のやり方を学び、理解できる)
- 23) 計器、スピード・メータ
(計器の種類とその必要性を考え理解できる)
- 24) 積算距離計、区間距離計、タコ・メータ
(スピード・メータやタコ・メータの指針駆動の原理を学び理解できる)
- 25) タコ・メータ、ウォータ・テンパラチャ・ゲージ
(水温計の作動回路を考え理解できる)
- 26) フューエル・ゲージ
(燃料残量計の作動回路を考え理解できる)
- 27) マルチ・インフォメーション・ディスプレイ
(マルチ・インフォメーション・ディスプレイの表示を理解できる)
- 28) 個別警報装置
(インジケータ・ランプとウォーニング・ランプの種類と違いを理解できる)
- 29) 論理回路
(IC 回路の作動を簡略的に考えることで、IC の作動を理解できる)
- 30) ライト消し忘れ警報装置
(ライト消し忘れ警報装置の回路を論理回路を通して理解できる)
- 31) 前期末試験

- 32) エア・コン(冷凍サイクル)
(冷凍サイクルの原理と構成を理解できる)
- 33) エア・コンの種類
(構成部品の種類と役割を理解できる)
- 34) オート・エア・コン
(オートで作動するために必要な情報と作動させる部品を理解できる)

- 35) 多重通信、CAN通信
(現在の車両では欠かせないコンピュータ同士の情報共有システムを理解できる)
- 36) CAN通信
(ISO規格の通信システムを考え理解できる)
- 37) SRSエア・バッグ
(SRSエア・バッグ作動の意味と構成部品を理解できる)
- 38) プリテンショナ・シート・ベルト
(プリテンショナ・シート・ベルトの作動とエア・バッグとのリンクを理解できる)
- 39) カー・ナビゲーション・システム
(カー・ナビゲーション・システムの原理を理解できる)
- 40) バッテリ
(バッテリーの種類と特性について理解できる)
- 41) バッテリ(始動性能)
(冷間時の始動特性とバッテリーからの供給電力について理解できる)
- 42) バッテリの寿命
(過放電とメンテナンスについて考え理解できる)
- 43) 発振回路
(コンピュータに必要な時間を計算する基となる発振回路を学び理解できる)
- 44) 半導体
(半導体電気回路について、復習を行い理解できる)
- 45) まとめ
(1年間で学んだことを、振り返る。練習問題)
- 46) 後期末試験

11. 備考・その他

電装整備について質問や不明なところがある場合は、事前に日時の相談をしてください。連絡が必要な場合は下記アドレスへメールすること。

tadokoro@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : 故障原因探究
2. 教育科目 : 専門科目 (自動車工学)
3. 担当者 : 杉野 啓司 (日産系販売店にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級・二級・車体 2年 後期(32時間)
5. 使用テキスト : 「自動車の故障と探究」
(全国自動車整備専門学校協会 編)

6. 授業の内容と方法

学科教室で、テキストとプロジェクタを使用して進める。
理解度を確認するために、練習問題を行っていく。

7. 科目の到達目標

近年の自動車技術の進歩は著しく、各装置の機能・性能が高度化すると共に、電子化などの技術により技術的にも極めて複雑になっているため、専門的な知識・技能が必要となっている。故障探究にあたり、どのような考え方で、どのような手順で取り組んで行けば良いのかという基本的なことを先ず学び、次に各装置についての探究法を習得する。

8. 成績評価方法

後期末に行う試験の点数が、60点以上であることを学習到達度の評価とする。併せて、出席が必要とされる規定の授業時間数出席していること。両方の要件を満たした者を履修した者として合格とします。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

故障探究を行う前に、装置の構造・機能を習得していなければ、正常か異常かの判断ができないので、1年生で習う各装置の構造機能と2年生で習う各装置の機能を理解しておくことが必要である。

10. 授業計画

- 1) 導入
(車両の維持管理、故障の発生状況が解るようになる)
- 2) 故障と探究
(診断技術の高度化、故障探究の意味が解るようになる)
- 3) 故障と探究
(故障探究方法が解るようになる)
- 4) ガソリンエンジンの故障原因と探究
(基本的な点検 1 の方法が解るようになる)
- 5) ガソリンエンジンの故障原因と探究
(基本的な点検 2 の方法が解るようになる)
- 6) ガソリンエンジンの故障
(ピストン関係の故障が解るようになる)
- 7) ガソリンエンジンの故障
(エンジンオイル関係の故障が解るようになる)
- 8) ガソリンエンジンの故障
(ノッキングについて解るようになる)
- 9) 電子制御式燃料噴射装置の故障
(電子制御式燃料噴射装置の点検手順が解るようになる)
- 10) 電子制御式燃料噴射装置の故障
(燃料系・点火系・吸気系の点検手順が解るようになる)
- 11) 外部診断器の活用による故障探求方法
(外部診断器の表示方法が解るようになる)
- 12) 外部診断器の活用による故障探求方法シャシの故障
(外部診断器による故障探求手順が解るようになる)
- 13) シャシの故障
(クラッチ・MT・AT 関係の点検方法・故障が解るようになる)
- 14) シャシの故障
(ブレーキ・制動倍力装置の点検方法・故障が解るようになる)
- 15) シャシの故障
(タイヤ・ホイールに関する故障が解るようになる)
- 16) 電装品の故障
(始動装置・充電装置の点検方法・故障が解るようになる)
- 17) 電装品の故障
(メータ類・ランプ類の故障が解るようになる)

- 18) 電装品の故障
(エアコンの仕組み点検方法が解るようになる)
- 19) 2級整備士試験の問題
- 20) 2級整備士試験の問題
- 21) 2級整備士試験の問題
- 22) 2級整備士試験の問題
- 23) 2級整備士試験の問題
- 24) 2級整備士試験の問題
- 25) 2級整備士試験の問題
- 26) 2級整備士試験の問題
- 27) 2級整備士試験の問題
- 28) 2級整備士試験の問題
- 29) 2級整備士試験の問題
- 30) 2級整備士試験の問題
- 31) 2級整備士試験の問題
- 32) 後期試験

11. 備考・その他

故障探究について質問や不明な所がある場合は、事前に日時の相談をしてください。
連絡が必要な場合は下記アドレスへメールすること。

sugino@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : 測定機器・検査機器
2. 教育科目 : 専門科目 (機器の構造・取扱い)
3. 担当者 : 橋本 拓也 (日産系自動車会社にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級・二級・車体2年 前期(26時間)
5. 使用テキスト : 自動車整備工具・機器
全国自動車整備専門学校編

6. 授業の内容と方法

学科教室で、テキストとプロジェクタを使用して進める。
大切な所は板書するので、しっかりと色分けしてノートに書き写すこと。

7. 科目の到達目標

自動車の検査に使用する検査用機器は、道路運送車両法により構造と必要な精度が規定されており、重要である。また、その検査結果により、公道を走行できるかできないかを判断しなければならない。そのためにも、機器の構造と取扱方法及び判断基準を理解する。

8. 成績評価方法

前期末に行う試験の点数が、60点以上であることを学習到達度の評価とする。併せて、出席が必要とされる規定の授業時間数出席していること。両方の要件を満たした者を履修した者として合格とします。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

検査機器を使って検査する場合は、各装置等の点検・整備を行った後の完成検査のときが多いので1年生時のエンジン、シャシ、電装の教科を十分に理解しておく必要がある。

10. 授業計画

- 1) 概要
(検査機器の意義、重要性、種類を理解することができる。)
- 2) サイドスリップ・テスト
(構造、取扱方法、基準を理解することができる。)
- 3) サイドスリップ・テスト
(使用上の注意事項、軸スリップを理解することができる。)
- 4) ブレーキ・テスト
(基準、構造を理解することができる。)
- 5) ブレーキ・テスト
(取扱方法、測定上の注意事項を理解することができる。)
- 6) スピードメータ・テスト
(基準、構造、取扱方法、測定上の注意事項を理解することができる。)
- 7) ヘッドライト・テスト
(基準、構造を理解することができる。)
- 8) ヘッドライト・テスト
(取扱方法、測定上の注意事項を理解することができる。)
- 9) 排気ガス測定器
(基準、構造、取扱方法、測定上の注意事項を理解することができる。)
- 10) オパシメータ
(基準、構造、取扱方法、測定上の注意事項を理解することができる。)
- 11) 騒音計
(音の基礎、基準、構造を理解することができる。)
- 12) 騒音計
(取扱方法、測定上の注意事項を理解することができる。)
- 13) 前期試験
- 14) 国家試験対策練習問題 1
- 15) 国家試験対策練習問題 2
- 16) 国家試験対策練習問題 3
- 17) 国家試験対策練習問題 4
- 18) 国家試験対策練習問題 5
- 19) 国家試験対策練習問題 6
- 20) 国家試験対策練習問題 7
- 21) 国家試験対策練習問題 8
- 22) 国家試験対策練習問題 9

- 23) 国家試験対策練習問題 10
- 24) 国家試験対策練習問題 11
- 25) 国家試験対策練習問題 12
- 26) 国家試験対策練習問題 13

11. 備考・その他

機器について質問や不明な所がある場合は、事前に日時の相談をしてください。
連絡が必要な場合は次のアドレスへメールすること。

sagara@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : 検査
2. 教育科目 : 専門科目(自動車検査)
3. 担当者 : 田所 文男 (トヨタ系自動車会社にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級、二級、車体 2年 ・ 通期(34時間)
5. 使用テキスト : 自動車整備士の法令教本 (自動車公論社)
6. 授業の内容と方法

学科教室において、テキスト・プロジェクタを使用し授業を進める。大切な所は板書を行うので、ノートを取って復習をすること。

7. 科目の到達目標

「道路運送車両の保安基準」を基として、その詳細「細目告示」を間に織り込みながら自動車の整備及び検査に対して自動車整備士として必要な「技術的な基準」を習得する。

8. 成績評価方法

学期末に行う試験の点数と出席状況を反映させた出席点を合算し評価点する。この評価点が60点以上、且つ規定の授業時間以上出席した者を合格とする。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

検査については、用語の定義及び基準値が重点項目である。大事な所はノートを確実にとること。

10. 授業計画

- 1) 自動車の構造 1
(保安基準用語の定義が分かる)
- 2) 自動車の構造 2
(長さ・幅・高さ及び最低地上高の基準が分かる)

- 3) 自動車の構造 3
(車両総重量及び軸重と輪荷重の基準が分かる)
- 4) 自動車の構造 4
(安定性及び接地部と接地圧の基準が分かる)
- 5) 自動車の装置(原動機及びシヤシ関係) 1
(原動機、動力伝達装置、走行装置及び操縦装置の基準が分かる)
- 6) 自動車の装置(原動機及びシヤシ関係) 2
(かじ取り装置、施錠装置及び制動装置の基準が分かる)
- 7) 自動車の装置(原動機及びシヤシ関係) 3
(緩衝装置、燃料装置及び電気装置の基準が分かる)
- 8) 自動車の装置(車体関係) 1
(車枠及び車体の基準が分かる)
- 9) 自動車の装置(車体関係) 2
(巻き込み防止装置及び突入防止装置の基準が分かる)
- 10) 自動車の装置(車体関係) 3
(乗車装置、運転席及び座席の基準が分かる)
- 11) 自動車の装置(車体関係) 4
(座席ベルト、乗降口及び非常口の基準が分かる)
- 12) 自動車の装置(車体関係) 5
(窓ガラスの基準が分かる)
- 13) 前期末試験

- 14) 自動車の装置(公害防止関係) 1
(騒音防止装置の基準が分かる)
- 15) 自動車の装置(公害防止関係) 2
(ばい煙、悪臭のあるガス、有害なガス等の発散防止装置の基準が分かる)
- 16) 自動車の装置(灯火関係) 1
(走行用前照灯の基準が分かる)
- 17) 自動車の装置(灯火関係) 2
(すれ違い用前照灯及び配光可変型前照灯の基準が分かる)
- 18) 自動車の装置(灯火関係) 3
(前部霧灯及び側方照射灯の基準が分かる)
- 19) 自動車の装置(灯火関係) 4
(車幅灯、前部上側端灯及び昼間走行灯の基準が分かる)
- 20) 自動車の装置(灯火関係) 5
(前部反射器、側方灯及び側方反射器の基準が分かる)

- 21) 自動車の装置(灯火関係) 6
(番号灯及び尾灯の基準が分かる)
- 22) 自動車の装置(灯火関係) 7
(後部霧灯、駐車灯及び後部上側端灯の基準が分かる)
- 23) 自動車の装置(灯火関係) 8
(後部反射器及び大型後部反射器の基準が分かる)
- 24) 自動車の装置(灯火関係) 9
(制動灯及び補助制動灯の基準が分かる)
- 25) 自動車の装置(灯火関係) 10
(後退灯の基準が分かる)
- 26) 自動車の装置(灯火関係) 11
(方向指示器及び補助方向指示器の基準が分かる)
- 27) 自動車の装置(灯火関係) 12
(非常点滅表示灯、緊急制動表示灯及び後面衝突警告表示灯の基準が分かる)
- 28) 自動車の装置(灯火関係) 13
(その他の灯火の基準が分かる)
- 29) 自動車の装置(運転操作) 1
(警音器の基準が分かる)
- 30) 自動車の装置(運転操作) 2
(非常信号用具、警告反射板及び停止表示器材の基準が分かる)
- 31) 自動車の装置(運転操作) 3
(盗難発生警報装置、車線逸脱警報装置及び車両接近通報装置の基準が分かる)
- 32) 自動車の装置(運転操作) 4
(後写鏡及び窓ふき器の基準が分かる)
- 33) 自動車の装置(運転操作) 5
(速度計、運行記録計及び速度表示装置の基準が分かる)
- 34) 後期末試験

11. 備考・その他

検査について質問や不明な所がある場合は、事前に日時の相談をしてください。
連絡が必要な場合は下記アドレスへメールすること。

✉ tadokoro@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : 自動車法規
2. 教育科目 : 専門科目(自動車工学)
3. 担当者 : 田所 文男 (トヨタ系自動車会社にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級、二級、車体 2年 ・ 前期・後期(34時間)
5. 使用テキスト : 自動車整備士の法令教本 (自動車公論社)
6. 授業の内容と方法

学科教室で、テキスト・プロジェクタを使用し授業を進める。大切な所は板書を行うのでノートにとって復習すること。

7. 科目の到達目標

自動車は社会生活、日常の生活に深い関わりを持っている。発達する車社会の秩序づくりとして機能するこの法令を理解することは健全な自動車社会の発展において必要不可欠なことである。

前期では自動車を所有し使用するための法的基準、法的に求められる手続きの取り方について学習し、後期では点検整備及び検査制度並びに自動車特定整備事業について学習する。

8. 成績評価方法

学期末に行う試験の点数と出席状況を反映させた出席点を合算し評価点する。この評価点が60点以上、且つ規定の授業時間以上出席した者を合格とする。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

法令条文はわかりにくい表現が多いので授業用ノートを必ず用意し、洩れなく記入し説明をしっかりと聞くことが重要である。

10. 授業計画

- 1) 車両法の法体系
(道路運送車両法の関係法令が分かる)
- 2) 車両法の目的、用語の定義
(車両法の目的と法令用語の定義が分かる)
- 3) 自動車の種別
(車両法に規定された自動車の種別が分かる)
- 4) 登録制度
(登録する理由と対象が分かる)
- 5) 新規登録の申請
(新規登録申請基準と方法が分かる)
- 6) 新規登録事項
(自動車登録番号の見方が分かる)
- 7) 自動車登録番号標
(自動車登録番号標の取り付け、表示の方法が分かる)
- 8) 変更登録、移転登録
(変更登録と移転登録の違いが分かる)
- 9) 永久抹消登録、一時抹消登録
(永久抹消と一時抹消の違いが分かる)
- 10) 車台番号の打刻
(車台番号に関する取り扱いが分かる)
- 11) 臨時運行の許可
(特別運行許可制度に係る臨時運行が分かる)
- 12) 回送運行
(特別運行許可制度に係る回送運行が分かる)
- 13) 前期末試験

- 14) 使用者の点検及び整備の義務、日常点検整備
(日常点検の基準が分かる)
- 15) 定期点検整備 1
(自動車の種別、用途毎の定期点検時期が分かる)
- 16) 定期点検整備 2
(種別毎の定期点検基準が分かる)
- 17) 点検整備記録簿
(点検整備記録簿の記載方法、取り扱いが分かる)

- 18) 特定整備の定義
(整備作業のうち、特定整備とは何かが分かる)
- 19) 整備管理者
(整備管理者が必要な自動車の種類と台数が分かる)
- 20) 整備命令
(整備不良の整備命令と不正改造の整備命令が分かる)
- 21) 自動車の検査
(道路運送車両法に定められた検査の種類及び実施方法が分かる)
- 22) 新規検査
(新規検査の申請と対象車両が分かる)
- 23) 継続検査
(継続検査の申請と対象車両が分かる)
- 24) 臨時検査、構造等変更検査、予備検査
(臨時検査と構造等変更検査及び予備検査の申請と対象車両が分かる)
- 25) 自動車検査証の有効期間
(自動車の種別毎に自動車検査証の有効期間が分かる)
- 26) 自動車検査証の記載事項、記載事項の変更
(自動車検査証に記載すべき事項と変更事由が分かる)
- 27) 検査標章、限定自動車検査証
(検査標章と限定自動車検査証の取り扱いが分かる)
- 28) 自動車特定整備事業
(特定整備事業の種類と対象とする自動車分かる)
- 29) 認証基準
(特定整備事業に認証される基準が分かる)
- 30) 特定整備事業者の義務、遵守事項、特定整備記録簿
(特定整備事業者の守るべきことと特定整備記録簿の記載事項、取り扱いが分かる)
- 31) 指定自動車整備事業者の認定
(指定自動車整備事業者の認定基準が分かる)
- 32) 自動車検査員、保安基準適合証
(自動車検査員の選任、兼任及び保安基準適合証の取り扱いが分かる)
- 33) 指定整備記録簿、限定保安基準適合証
(指定整備記録簿及び限定保安基準適合証の取り扱いが分かる)
- 34) 後期末試験

11. 備考・その他

法規について質問や不明な所がある場合は、事前に日時の相談をしてください。
連絡が必要な場合は下記アドレスへメールすること。

✉ tadokoro@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : 基本計測
2. 教育科目 : 実習(測定作業)
3. 担当者 : 田所 文男 (トヨタ系自動車会社にて自動車整備に従事)
田中 亮一 (日産系自動車会社にて自動車整備に従事)
上田 雄一 (トヨタ系自動車会社にて自動車整備に従事)
杉野 啓司 (日産系自動車会社にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級、二級、車体 2年 ・ 前期(20時間)
5. 使用テキスト : 2級ガソリン自動車 (日本自動車整備振興会連合会)
2級シャシ 編 (日本自動車整備振興会連合会)
電装品構造 (全国自動車整備専門学校協会)

6. 授業の内容と方法

電子制御化された車の故障診断を行うにあたりオシロスコープを使用し、電圧変化を確認することが必要である。

この実習によりアナログテスタ・デジタルテスタ及びオシロスコープの取り扱いをマスターし、電圧降下を理解する。

7. 科目の到達目標

アナログテスタは勿論の事、デジタルテスタを確実に使えるようになる。
オシロスコープも使える力を付けることにより、ECU への入出力の状態を理解する。

8. 成績評価方法

各サイクル後に行う試験(60%)レポート(30%)出席(10%)での評価点60点以上、かつ規定の授業時間数以上出席していること。

両方の要件を満たした者を履修した者として合格とします。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

電装実習が他の実習と大きく異なる点は、目に見えない物(電気)を理解しなければならない点である。「視覚」ではなく、「思考」でしか理解できない電気をいかに理論的に見る事が出来るか。結論を学ぶのではなく、自分で考え結論を出すという姿勢が大切である。

10. 授業計画

第1サイクル 電圧・抵抗・電流の測定方法・オシロスコープの基礎知識

- ・ アナログテスタとデジタルテスタの使い分けと使い方が分かる。
- ・ 抵抗体・半導体・電源などの測定方法が分かる。
- ・ オシロスコープの使い方が分かる。

11. 備考・その他

基本測定実習について質問や不明な所がある場合は、事前に日時の相談をしてください。

連絡が必要な場合は下記アドレスへメールすること。

✉ tadokoro@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : エンジン実習
2. 教育科目 : 専門科目(実習)
3. 担当者 : 上田 雄一・田所 文男・田中 亮一・杉野 啓司
(トヨタ・日産系自動車会社にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級・二級・車体2年 前・後期 193 時間
5. 使用テキスト : 「二級ジーゼル自動車」(日本自動車整備振興会連合会)
「三級ジーゼル自動車」(日本自動車整備振興会連合会)
「二級ガソリン自動車」(日本自動車整備振興会連合会)
「二級二輪自動車」(日本自動車整備振興会連合会)
「三級二輪自動車」(日本自動車整備振興会連合会)
6. 授業の内容と方法

学科「二級ジーゼル自動車」「二級ガソリン自動車」「二級二輪自動車」で扱う内容について、実物で確認をすると共に分解、組み付け等の手順やコツ、部品の取り扱い方などの基本を体得させる。部品の形状や構成から、構造機能理解させる。また、現代の自動車は電子制御化が進み最新の整備機器を利用して理解を深めさせると共に、故障探究等を行い即戦力として育てる事を目標にする。

7. 科目の到達目標

二輪エンジンと四輪エンジン共に構造機能を理解したうえで、燃料装置についても電子制御式燃料噴射の点検・調整・故障探究が出来るようになることを目的とする。

8. 成績評価方法

各サイクル後に行う試験(60%)レポート(30%)出席(10%)での評価点60点以上、且つ規定の授業時間以上出席していること。両方の要件を満たした者を履修した者として合格とする。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

- 1 1年次のレポートを復習して授業に臨むこと。
- 2 分解、組み付け時の工具の使い方や作業態度について特に注意すること。
- 3 電子制御式燃料装置については、第4サイクルから第9サイクルまで内容が続くため、毎回資料はしっかり保存すると共に、復習して次回の実習に臨むこと。
- 4 即戦力となり得る最新の整備機器を使用するので、取り扱いには細心の注意を払い体得する。
- 5 エンジンを始動するため、回転部分には近づかない様注意を払うこと。
- 6 安全作業を確実に実施させる。

10. 授業計画

第1サイクル

ガソリンエンジン点検(圧縮・火花・混合気)、冷却水交換
ベンチエンジンを使用し、ガソリンエンジンの燃焼に必要な、圧縮・火花・混合気点検を行うことができ、必要性の説明が行える。
冷却水の交換を行うことができ、LLC 濃度調整の必要性が説明出来る。

第2サイクル

2 輪車 アクスル及びサスペンション
CB400 を使用し、リヤサスペンションの減衰力特性を学び減衰力について説明が出来る。
リヤサスペンションのばね特性、レバー比の関係性の説明が出来る。
2輪車のシャシ構造を学び、国家試験出題範囲の問題が解ける。

第3サイクル

ジーゼルエンジン
コモンレール燃料噴射装置
コモンレール燃料噴射装置、外部診断機を活用した基本点検を行うことが出来る。
ジーゼルエンジンの噴射方法を理解し、説明が出来る。
オパシメータ・黒煙測定器で測定を行い、測定方法が違う理由が説明出来る。

第4サイクル

ガソリンエンジン
電子制御システム(センサ系統)
燃料系統を理解する。
噴射方式を理解する。

各センサ類を理解する。

(水温センサ・バキュームセンサ・スロットルポジションセンサ)

フューエルポンプ回路を理解する。

ゲージ圧と絶対圧を理解する。

第5 サイクル

ガソリンエンジン

電子制御システム(制御系統)

各アクチュエータ類を理解し、説明が出来る。

噴射補正を理解し、国家試験過去問題を解くことが出来る。

自己診断システムを理解し、点検が行える。

第6 サイクル

運転支援システム

・プリクラッシュブレーキシステム、レーントレーシングシステム

運転支援システムの制御を行う装置について、模型を活用しながら理解をする。

車両を用いて、制御に使用されている部品を確認する。

第7 サイクル

ガソリンエンジン

電子制御システム

外部診断器の使用法、点検方法、考え方

フューエルポンプ系統故障探究

センサ回路

回路図を用いた故障診断を行うことができ、どこに不具合があるのか説明が出来る。

外部診断器を用いて、異常系統を判断することが出来る。

第8 サイクル

ガソリンエンジン

電子制御システム(故障探究)

ベンチエンジンでの故障探究 (2回)切り分け法

フューエルポンプ系統故障探究(復習)

O₂センサ特性

8サイクルで学んだ内容を活かし、より高度な故障診断が出来る。また、故障箇所の説明が出来る。

第9 サイクル

ガソリンエンジン

電子制御システム(燃料噴射制御・点火時期制御)

燃料噴射制御、始動時～通常噴射時まで、外部診断器データモニタを活用し点検を行うことが出来る。

点火時期制御、固定進角・基本進角について、外部診断器データモニタを活用し点検を行うことが出来る。

故障診断 点火時期制御(エンジンが始動しない-単気筒ダイアグ)

第10 サイクル

国家試験対策授業を基に、苦手分野を復習する。

エンジン本体(ピストン、ピストンリング、コンロッドベアリング、クランクシャフト、ダイアグラム)

エンジン付属装置(粘性式ファンクラッチ、ウォーターポンプ、オイルポンプ)

ガソリンエンジン電子制御(センサ類、アクチュエータ類、制御内容)

ジーゼルエンジン電子制御(コモンレール、制御内容)

教材車両を用いて、エンジンを点検する。

国家試験に臨むための、最終確認。

11. 備考・その他

エンジン実習について質問や不明な所がある場合は、事前に日時の相談をしてください。連絡が必要な場合は下記アドレスへメールすること。

ueda@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : シヤシ 実習
2. 教育科目 : 実習 (自動車整備作業)
3. 担当者 : 田中 亮一 (日産系自動車会社にて自動車整備に従事)
田所 文男 (トヨタ系自動車会社にて自動車整備に従事)
上田 雄一 (トヨタ系販売店にて自動車整備に従事)
杉野 啓司 (日産系販売店にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級、二級、車体 2年
第1・2・3・4・5・6・10 サイクル シヤシ実習(194 時間)
5. 使用テキスト : 「二級自動車シヤシ」(日本自動車整備振興会連合会)
「二級自動車エンジン」(日本自動車整備振興会連合会)

6. 授業の内容と方法

学科教室において、テキストを使用し授業を進める。テキスト内画像はプロジェクタで投影し、大切な所とテキストは板書を行うので、ノートを取って復習をすること。

7. 科目の到達目標

学科「二級自動車シヤシ」で扱う内容について、実物で確認をするとともに分解、組み付け等を行い、その構造や作動を理解する。またその装置の制御の方法を理解して故障箇所の探究をしていく。

8. 成績評価方法

各サイクル後に行う試験(60%)レポート(30%)出席(10%)での評価点 60 点以上、且つ規定の授業時間以上出席していること。
両方の要件を満たした者を履修した者として合格とします。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

- 1) 1年次のレポート復習して授業に臨むこと。
- 2) 分解、組み付け時の工具の使い方や作業態度について特に注意すること。

- 3) 即戦力となり得る最新の整備機器を使用するので、取り扱いには細心の注意を払う。
- 4) エンジンを始動するため、回転部分には近づかない様注意を払うこと。
- 5) 安全作業を確実に実施させる。
- 6) 授業中に大切なところは抑えていくため、休まず出席することが大切である。

10. 授業計画

第1サイクル

基本点検

- (実習における注意が分かる)
- (安全な作業の行い方が分かる)
- (オート・リフト操作が分かる)
- (使用時の注意、使用方法が分かる)
- (車両とリフトの位置が分かる)

第2サイクル

ホイール・アライメント

- (ホイール・アライメントの必要性が言える)
- (ホイール・アライメント測定、調整が分かる)

第3サイクル

オートマチック・トランスミッション分解、組立

- (概要説明、パワートレーンの各部名称、各 부품のつながりが言える)
- (トルクコンバータのオイルの流れ方、トルク増大の意味、ロックアップの必要性、意味、その方法が分かる)
- (遊星歯車の作動(減速, 等速, 増速)が分かる)
- (Dレンジ第1速から第4速、リバースでの入力軸から出力軸までの動力制御、変速伝達順序、作動説明が言える)

第4サイクル

オートマチック・トランスミッション分解、組立

- (電子制御、油圧制御装置(オイルポンプ、コントロールバルブ、ソレノイドバルブインヒビタスッチ、油温センサー、車速センサー、ラインプレッシャ制御ガバナプレッシャ、スロットルプレッシャ、ラインプレッシャ測定オートマチック・トランスミッション・フルード交換、トルコンチェンジャー使用)が分かる)

第5 サイクル

接客

(車の受け渡しができるようになる)

(車の受け渡しの手順及びお客様に対する対応ができるようになる)

第6 サイクル

12ヶ月点検

(定期点検の目的が分かる)

(定期点検の種類が言える)

(定期点検記録簿の記号、記入の仕方が分かる)

(定期点検の整備の仕方が分かる)

第9 サイクル

12・24ヶ月点検と検査ライン

(検査基準が分かる)

(検査ラインの通すことができる)

(検査記録簿の記入の仕方、合否判定が分かる)

第10 サイクル

タイヤ、ホイール

(タイヤ、ホイールの構造、機能、呼称が言える)

(タイヤチェンジャを操作できるようになる)

(タイヤバルンサを操作でき

11. 備考・その他

シャシ実習について質問や不明な所がある場合は、事前に日時の相談をしてください。
連絡が必要な場合は下記アドレスへメールすること。

r-tanaka@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : 電装実習
2. 教育科目 : 専門科目(自動車整備作業)
3. 担当者 : 田 所 文 男 (トヨタ系自動車販売店にて自動車整備に従事)
上 田 雄 一 (トヨタ系自動車販売店にて自動車整備に従事)
田 中 亮 一 (日産系自動車販売店にて自動車整備に従事)
杉 野 啓 司 (日産系自動車販売店にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級・二級・車体 2年 前・後期 (194時間)
5. 使用テキスト : 「二級ガソリン自動車」 (日本自動車整備振興会連合会)
: 「二級シャシ編」 (日本自動車整備振興会連合会)
: 「電装品構造」 (全国自動車整備専門学校協会 編)

6. 授業の内容と方法

これからの自動車整備士に求められる事は、車の構造を熟知していることに加え、電気回路が理解できる能力である。近年、電子制御化された車の故障診断は、テスタやオシロ・スコープ等の測定機器が正しく取り扱える技術と電気回路の理解無しでは不可能に近い。電氣的トラブルに対処できる基礎的な実技をしっかりと身に付け、故障診断を正確に順序だてて考える力を養成する。

7. 科目の到達目標

回路上に於いての電圧降下の理解を基本とし配線図を読めるようになり、各電装の構造、機能を実際に現物を分解・確認・組み付けを出来るようになるのを目的とする。

8. 成績評価方法

各サイクル後に行う試験(60%)、レポート(30%)、出席(10%)で評価点60点以上、且つ規定の授業時間以上出席していること。

両方の要件を満たした者を履修した者として合格とする。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

電装実習が他の実習と大きく異なる点は、目に見えない物(電気)を理解しなければならない点である。「視覚」ではなく、「思考」でしか理解できない電気をいかに理論的に見ることが出来るか。結論を学ぶではなく、自分で考え結論を出すという姿勢が大切である。

10. 授業計画

第2サイクル 配線図の見方と電圧降下について

- ・電気回路の考え方と回路電流及び回路電圧の考え方が分かる。
- ・配線図と実車の配線を見比べ自動車配線が分かる。

第3サイクル 始動装置

- ・始動装置全体について構造機能が分かる。
- ・マグネットスイッチの必要性と構造について理解し、簡易試験ができる。
- ・出力特性試験を行いグラフ化をすることでモーターの特性が分かる。
- ・故障診断の考え方や方法が分かる。

第4サイクル 充電装置

- ・充電装置の必要性と構成部品が分かる。
- ・オルタネータの回路を理解できる。
- ・各端子の電圧変化をオシロ・スコープを使用して測定し確認できる。
- ・オルタネータの出力電流や調整電圧を確認し特性が分かる。

第5サイクル エア・コンディショナー

- ・冷・暖房装置の概要を知り冷凍サイクルを理解し、部品の分解と作動が分かる。
- ・コンプレッサの構成とガスの流れ方を理解し組み付けができる。
- ・エアコン・ガスの交換作業と注意事項が分かる。
- ・オート・エアコンの作動を確認し、自動制御を理解できる。

第6サイクル 電動パワーステアリング

- ・パワーステアリングの有効性を測定値により確認し、分解ができる。
- ・ラック&ピニオン式の組み付けと、ボール・ナット式の分解およびオイルポンプの分解・組み付けができる。
- ・電動パワーステアリングの種類と作動原理を確認と分解組み付けができる。

第7サイクル 点火装置 1

- ・昇圧の原理を考えると共にイグナイタの作動を考え理解できる。
- ・一次電圧波形の変化を考え理解できる。
- ・点火装置の全般的な電気回路を理解できる。

第8サイクル 点火装置 2 、エア・バツグ

- ・二次電圧波形の変化を考え理解できる。
- ・点火時期制御の内容が分かる。
- ・点火スパークプラグにかかる電圧を観測し理解できる。
- ・エア・バツグ・システムの構造と作動制御が分かる。

第9サイクル 故障診断

- ・充電装置と始動装置の故障探求のやり方が分かる。
- ・機材を使い故障探求を行うことができる。
- ・故障探求の結果を確認し、方法を議論し理解できる。

第10サイクル ハイブリッド ・ 電気自動車

- ・ハイブリッド車・電気自動車の取り扱いと、高圧電気の危険性が分かる。
- ・ハイブリッド車・電気自動車の種類と、基本構造が分かる。
- ・整備モードの切り替えと外部診断機の取り付け方が分かる。

11. 備考・その他

電装実習について質問や不明な点がある場合は、事前に日時の相談をしてください。
連絡が必要な場合は下記アドレスへメールすること。

tadokoro@kurume-it.ac.jp

1. 教育内容 : 検査実習
2. 教育科目 : 実習 (自動車整備作業)
3. 担当者 : 田中 亮一 (日産系自動車会社にて自動車整備に従事)
田所 文男 (トヨタ系自動車会社にて自動車整備に従事)
上田 雄一 (トヨタ系販売店にて自動車整備に従事)
杉野 啓司 (日産系販売店にて自動車整備に従事)
4. 履修学年・学期(時間) : 一級、二級、車体 2年
第7・8・9サイクル シヤシ実習 60時間
5. 使用テキスト : 「二級自動車シヤシ」(日本自動車整備振興会連合会)
「二級自動車エンジン」(日本自動車整備振興会連合会)

6. 授業の内容と方法

学科教室において、テキストを使用し授業を進める。テキスト内画像はプロジェクタで投影し、大切な所とテキストは板書を行うので、ノートを取って復習をすること。

7. 科目の到達目標

学科「二級自動車シヤシ」で扱う内容について、実物で確認をするとともに分解、組み付け等を行い、その構造や作動を理解する。またその装置の制御の方法を理解して故障箇所の探究をしていく。

8. 成績評価方法

各サイクル後に行う試験(60%)レポート(30%)出席(10%)での評価点 60 点以上、且つ規定の授業時間以上出席していること。
両方の要件を満たした者を履修した者として合格とします。

9. 履修にあたっての準備・事前学習

- 1) 1年次のレポート復習して授業に臨むこと。
- 2) 分解、組み付け時の工具の使い方や作業態度について特に注意すること。

- 3) 即戦力となり得る最新の整備機器を使用するので、取り扱いには細心の注意を払い体得する。
- 4) エンジンを始動するため、回転部分には近づかない様注意を払うこと。
- 5) 安全作業を確実に実施させる。
- 6) 授業中に大切なところは抑えていくため、休まず出席することが大切である。

10. 授業計画

第7サイクル

12ヶ月点検

- (定期点検の目的が分かる)
- (定期点検の種類が言える)
- (定期点検記録簿の記号、記入の仕方が分かる)
- (定期点検の整備の仕方が分かる)

7サイクル試験

第8サイクル

24ヶ月点検

- (定期点検記録簿の記号、記入の仕方が分かる)
- (定期点検の整備の仕方が分かる)

8サイクル試験

第9サイクル

12・24ヶ月点検と検査ライン

- (検査基準が分かる)
- (検査ラインの通すことができる)
- (検査記録簿の記入の仕方、合否判定が分かる)

9サイクル試験

11. 備考・その他

検査実習について質問や不明な所がある場合は、事前に日時の相談をしてください。
連絡が必要な場合は下記アドレスへメールすること。

r-tanaka@kurume-it.ac.jp